

2025 年度（令和 7 年）

事業報告書

社会福祉法人 福寿会

目次

1	法人理念	2
2	基本方針	3
3	理事会及び評議委員会の開催.....	4
4	施設概要	5
5	介護部門	6
(1)	入所・住居系.....	6
①	特別養護老人ホーム	6
②	ショートステイサービス.....	23
③	グループホーム アクル	24
④	軽費老人ホーム	25
⑤	サービス付き高齢者向け住宅	26
a	サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠.....	26
b	サービス付き高齢者向け住宅グレイス福寿	28
(2)	通所系	30
①	デイサービス	30
(3)	訪問系	32
①	訪問介護ステーション	32
②	訪問リハビリテーション	33
(4)	居宅介護支援事業所.....	33
(5)	地域公益活動報告	35
(6)	活動報告.....	35
6	医療部門	44
(1)	平城園診療所	44
(2)	あきしの整形外科クリニック	45
7	保育部門	45
(1)	登美ヶ丘マミーズ保育園	45
(2)	福寿会マミーズ保育園	49

1 法人理念

【法人の基本理念】

1. その人の人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

【法人の基本方針】

1. 地域福祉の拠点として、地域から信頼される法人を目指します。
2. 利用者から評価される安心できる質の高いサービスを提供します。
3. 人材確保と育成に取り組み、職員の質の向上に努めます。
4. 各種制度や法改正の意思や方向性を見極め、中長期的視野に立った安定した経営を構築します。
5. 財務情報公開、行政の認証制度、苦情解決等の透明性の確保に努めます。

2 基本方針

令和7年度は、経営基盤の強化、人材育成をテーマとし、地域に貢献しうる法人となるための土台作りに注力しました。

経営基盤の強化については、各事業担当者が主体的に予算策定を行える体制構築を進め、ボトムアップによる組織運営の基盤整備に取り組みました。また、本部部門においては、稼働率管理や給与計算等のDX推進を進め、業務効率化と経営管理体制の強化を図りました。加えて、人事評価についてもシステム化を進めており、令和8年度中の本格運用に向けた準備を進めています。

人材育成については、接遇向上や研修機会の充実等を継続して進めてきましたが、組織全体への浸透という点では道半ばであり、継続的な取組の必要性を感じています。一方で、ISO25554の評価証明を取得できたことは、法人としてウェルビーイングを重視した組織運営を進めてきた成果の一つであり、今後の法人運営における大きな指針となりました。

年度を通して各種取組を進める中で、経営基盤強化や人材育成について一定の前進が見られ、法人としての土台形成が進んだ一年となりました。今後は、更なる組織成熟を目指すとともに、採用力強化やウェルビーイング推進にも注力し、地域に必要とされ続ける法人となれるよう取組を進めて参ります。

3 理事会及び評議委員会の開催

1) 2025 年度における理事会を次のとおり開催した

開催月	主な審議事項
2025 年 6 月	2024 年度 事業報告・決算報告 次期役員候補者の推薦について 評議員会の開催について 評議員選任・解任委員の選任について 次期評議員候補者の推薦について 評議員選任・解任委員会の開催について 福祉医療機構からの借入について
2025 年 6 月	理事長の選定について
2025 年 12 月	資金調達（短期借入）について
2026 年 3 月	2025 年度 補正予算 2026 年度 事業計画・収支予算 経理規程の一部改正 給与規程の一部改正 育児介護休業規程の一部改正 登美ヶ丘マミーズ保育園園則の一部変更

2) 2025 年度における評議員会を次のとおり開催した

開催月	主な審議事項
2025 年 6 月	2024 年度 事業報告・決算報告
2026 年 3 月	2025 年度 補正予算 2026 年度 事業計画・収支予算

3) 評議員選任解任委員会を、次のとおり開催した

開催月	主な審議事項
2025 年 6 月	評議員の解任、次期評議員の選任

4) 監事による監査

- ① 監事は理事会に出席し、理事会の運営状況、法人の財産の状況を監査する。
- ② 監査報告書を作成し理事会及び奈良市長に報告する。

開催月	主な審議事項
2025 年 6 月	決算並びに事業報告の監事監査

4 施設概要

施設 1

名称	平城園	住所	奈良市秋篠町 1567
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホーム平城園	
ショートステイ		平城園ショートステイサービス	
グループホーム		グループホーム アクール	
サービス付き高齢者向け住宅		ヴィラ秋篠	
デイケア		あきしの整形外科クリニックデイケア	
訪問介護ステーション		平城園ホームヘルプステーション	
訪問リハビリテーション		平城園訪問リハビリテーション	
居宅介護支援事業		平城園在宅介護支援センター	
内科診療所		平城園診療所	
整形外科診療所		あきしの整形外科クリニック	
企業内保育所		福寿会マミーズ保育園	

施設 2

名称	ならやま園	住所	奈良市山陵町 1085
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホームならやま園	
ショートステイ		ならやま園ショートステイサービス	
デイサービス		ならやま園デイサービスセンター	
訪問介護ステーション		ならやま園ホームヘルプステーション	
居宅介護支援事業		ならやま園居宅介護支援事業所	
軽費老人ホーム		ケアハウス ニューライフならやま	

施設 3

名称	登美ヶ丘マミーズ保育園	住所	奈良市中登美ヶ丘五丁目 34-1
実施事業		事業所名	
保育所型認定こども園		登美ヶ丘マミーズ保育園	

施設 4

名称	グレイス福寿	住所	奈良市山陵町 1485
実施事業		事業所名	
サービス付き高齢者向け住宅		グレイス福寿	
デイサービス		奈良デイサービスセンター	

5 介護部門

(1) 入所・住居系

① 特別養護老人ホーム

a 特別養護老人ホーム平城園

令和7年度のテーマは「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」であった。導入している ICT 機器については、徐々に現場での応用ができるようになり、業務の効率化と職員の負担軽減に繋がり、サービスの質の向上へ取り組むことができた。人材育成については、法人研修によるチーム力を高める取り組みを実践し一定の効果が見られた。さらに定着に向け今後も継続していく。外国人職員の育成については、互いの研修を強化し、現場での情報共有と経験知の積み重ねによりそれぞれの成長に繋がっている。

令和8年度は、「職員が安心して働き、それぞれの専門性を活かして一人ひとりが成長できる職場環境作り」「利用者の尊厳と生きがいを大切にした支援体制の整備」「地域との連携体制の強化」に 取り組んで参る。

➤ 介護部門（従来型特養）

■ 体制づくり

令和7年度においては行事やレクリエーションの推進による豊かな生活の提供をテーマとし、ボランティアによる慰問や、家族の協力も得てのレクリエーションの実施が定例的に実施できた。新たな ICT 機器の導入には至らなかったが、デモ機のトライアル実施による情報収集と既存機器の活用状況の改善に継続的に取り組むことができた。

■ 人材育成・雇用の安定化・職場環境づくり

新卒採用は残念ながら得られなかったが、4名の外国人採用が実施できた。外国人採用を始めた一昨年以来の経験により、現場での指導、サポート体制が確立でき、着実に戦力化することができた。接遇マナーの改善に向けては法人内で横断的な委員会を発足し、特養としても課題提起やクレーム事例の共有を図ることができた。

■ 災害・感染症に対応できる体制づくりの強化・計画の充実

令和7年度は福祉避難所開設訓練を実施。有事に備え、貴重な機会を得ることができた。インフルエンザ、コロナウイルス、ノロウイルス等の感染症発生においては、昨年度に整理した初動対応マニュアルの実践により迅速に対処でき、二次感染を最小限に抑えることができた。しかし、経験の浅い職員の理解度が低いなどの課題もみられ、これらマニュアルが新規職員へも確実に指導伝達され、対応レベルの維持が行えるように各委員会の主導にて継続して取り組む必要がある。

➤ 介護部門（ユニット型特養）

■ 個別性を活かした安全な生活を目指す。／環境づくり

今年度よりユニット費が活用できるようになり、暮らしに沿った生活空間づくりを実践できる機会が得られた。入居者の状態によっては安全面が優先され、環境づくりを進めにくい状況もあり、今後も、暮らしに必要なものを、安全面を考慮しながら、適切に揃えていきたい。また、コミュニケーションを大切にし、よりその方らしさの理解に努めたい。

■ できること、強みを活かした役割づくり

手仕事が得意な方が多く、習慣化により、個々の役割として認識され、メリハリのある生活づくりにつながっている。

■ 福祉機器の活用と介護技術の習得

機器の試用機会があったが、導入には繋がっていない。介護技術面は、排泄関連物品の見直しに着手し、技術指導を通して向上に繋がった。今後一層、入居者の安全、安心、快適な生活を援助できるよう、職員個々のレベルアップが必要である。

➤ 看護部門

利用者の人権を尊重し「安心・安全」「納得・信頼」のある看護を提供する。

■ 利用者の健康管理、異常の早期発見

介護職、多職種との連携により、利用者の異常の早期発見、日々の状態の変化を把握し、迅速に医師へ報告・指示のもと体調管理に努めた。例年通り定期健康診断を実施し、精密検査を要する際は病院受診に繋がった。医療機関への受診は定期受診、臨時受診を含む総数は、404 件（前年度 374 件）、入院された利用者は、61 名（前年度 49 名）であった。

（図 1 と図 2）

■ 多職種との連携を行い平常時からの感染予防、感染拡大防止に努める。

前年度に引き続き、コロナウイルス、インフルエンザウイルス、急性胃腸炎の発生があり、「持ち込まない・広げない・早期発見・対応」を徹底する為、LINE ワークスを活用し情報共有に努めた。コロナウイルスは通年あり、令和 7 年 11 月には従来型フロアにて、職員 5 名、入居者 12 名（うち入院 3 名）のクラスター感染が発生した。インフルエンザウイルスによる感染は、職員に数名あったが、利用者へ感染はなかった。感染性胃腸炎は、令和 7 年 12 月から 1 月にかけて、利用者 2 名の症状発生後、入院先でノロウイルス検出、さらに職員 1 名が感染した。ノロウイルスの強い感染力、潜伏期間を考慮し、迅速な感染対策強化を実施、クラスター感染に至らず終息した。いずれにしても、標準予防策、定期的な換気と環境整備、迅速な情報共有に加え、発生時の迅速な初期対応が職員の身についていることが評価できた。

また、協力医療機関である白庭病院、感染管理認定看護師による現場訪問を受け、感染対策への助言をいただき実践できるのは大変参考になっている。

- 利用者・家族に安心して頂ける看取り介護の提供が行えるよう、多職種との連携を図る。

本年度、園内で亡くなられた利用者は、17名(前年度16名)、うち看取り介護を受けられたのは、15名(前年度12名)であった。最期まで、安心・安楽に過ごせるよう、本人および家族の意思を尊重した看取り介護になるよう、介護職員を中心に多職種で連携し、身体的、精神的支援に努めた。

図1 <利用者の受診・入院状況>

(単位：人)

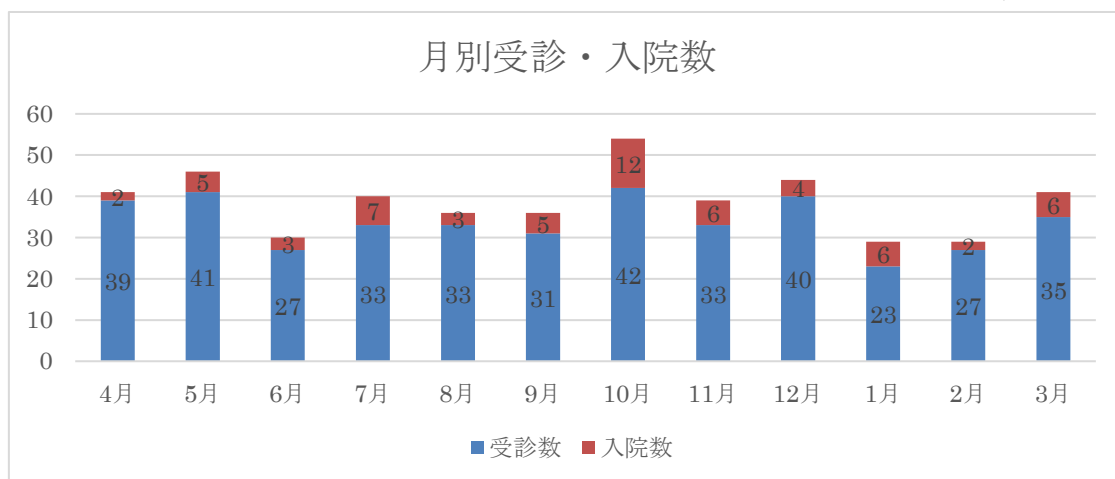
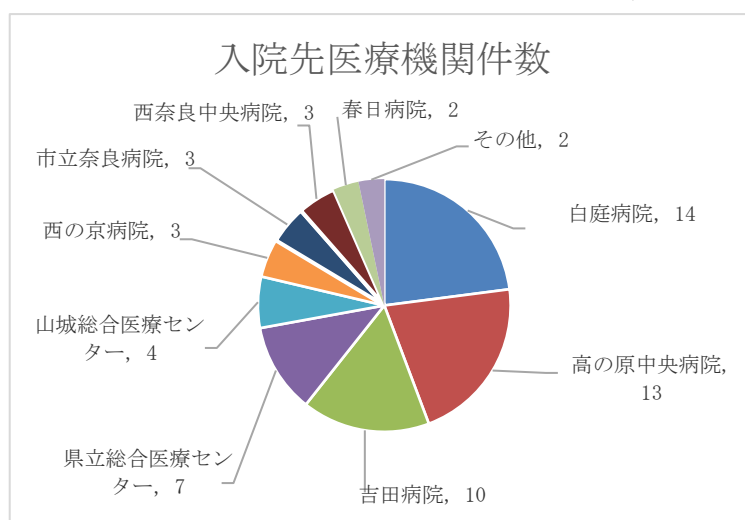


図2 <入院先医療機関件数>

(単位：人)



➤ 機能訓練

■ 個別機能訓練計画の作成

個別のニーズに基づいた目標設定により、訓練に対する利用者の主体性が向上し、結果として利用者の多くが身体機能を概ね維持出来た。

■ 科学的根拠に基づく機能訓練と環境整備

アセスメントに基づき、筋力維持や関節可動域訓練等を実施した。歩行安定性や座位保持能力を補完するため、身体状況に適合するクッションや適切な靴の選定・購入を支援し動作時の安定性が向上、活動量の増加につながった。また ADL（日常生活動作）の向上だけでなく、「屋外へ出たい」といった精神的な QOL 向上に関するニーズも尊重し訓練意欲向上につながった。

■ 残存能力の活用と介助技術の標準化

個々の日常生活動作能力に合わせ、「出来ないこと」を補うだけでなく「出来ること」を活かす生活リハビリを軸とした介助を実施。最適な介助方法について情報共有し、介助方法が統一され利用者が混乱なく残存能力を発揮できる環境が整った。過介助の防止により、身体機能の過度な低下を抑制出来ている。

■ 多職種連携による協力体制の構築

他部署とは利用者の生活環境、残存能力の評価、具体的な介助方法について意見交換を行い、良好な関係性を構築した。

その結果利用者の状態変化に対するレスポンスが迅速化し多角的な視点で「生活リハビリ」の方向性を一致させることが出来た。

■ 褥瘡予防と安楽な環境提供

体動困難な利用者や看取り期の利用者に対しポジショニングを実施。購入したクッション等も活用し、圧再分散と良肢位の保持により拘縮の進行抑制および褥瘡予防・軽減に寄与した。苦痛の緩和と安楽な姿勢の保持により、看取り期においても穏やかな生活環境が提供出来ている。

■ 摂食嚥下障害が疑われる利用者に適切な支援

専門的な評価に基づいた食事形態および食事環境の調整、介助方法の指導を実施。また食事だけでなく、「楽しみ」としてのおやつについても指導を実施。適切な食事形態と環境調整、介助方法の共有により、食事時のむせ込みや疲労が軽減し、誤嚥リスクの低減、安全な経口摂取につながった。またおやつ摂取により、経口摂取能力の維持、意欲向上につながった。

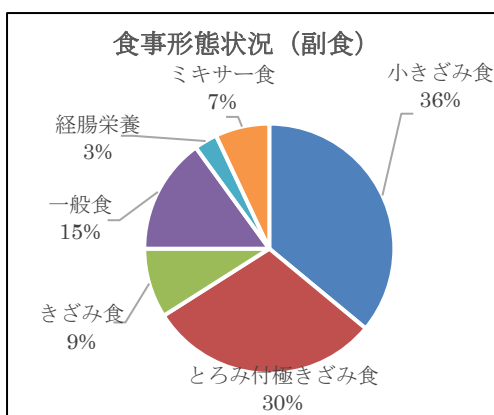
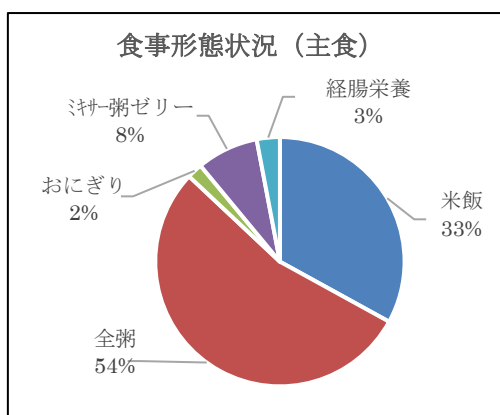
（単位：人）

	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			合計
	従来型	ユニット型	合計	従来型	ユニット型	合計	
R7 年度	1, 811	984	2, 795	324	97	421	3, 216
R6 年度	1, 816	1, 171	2, 987	322	117	439	3, 426

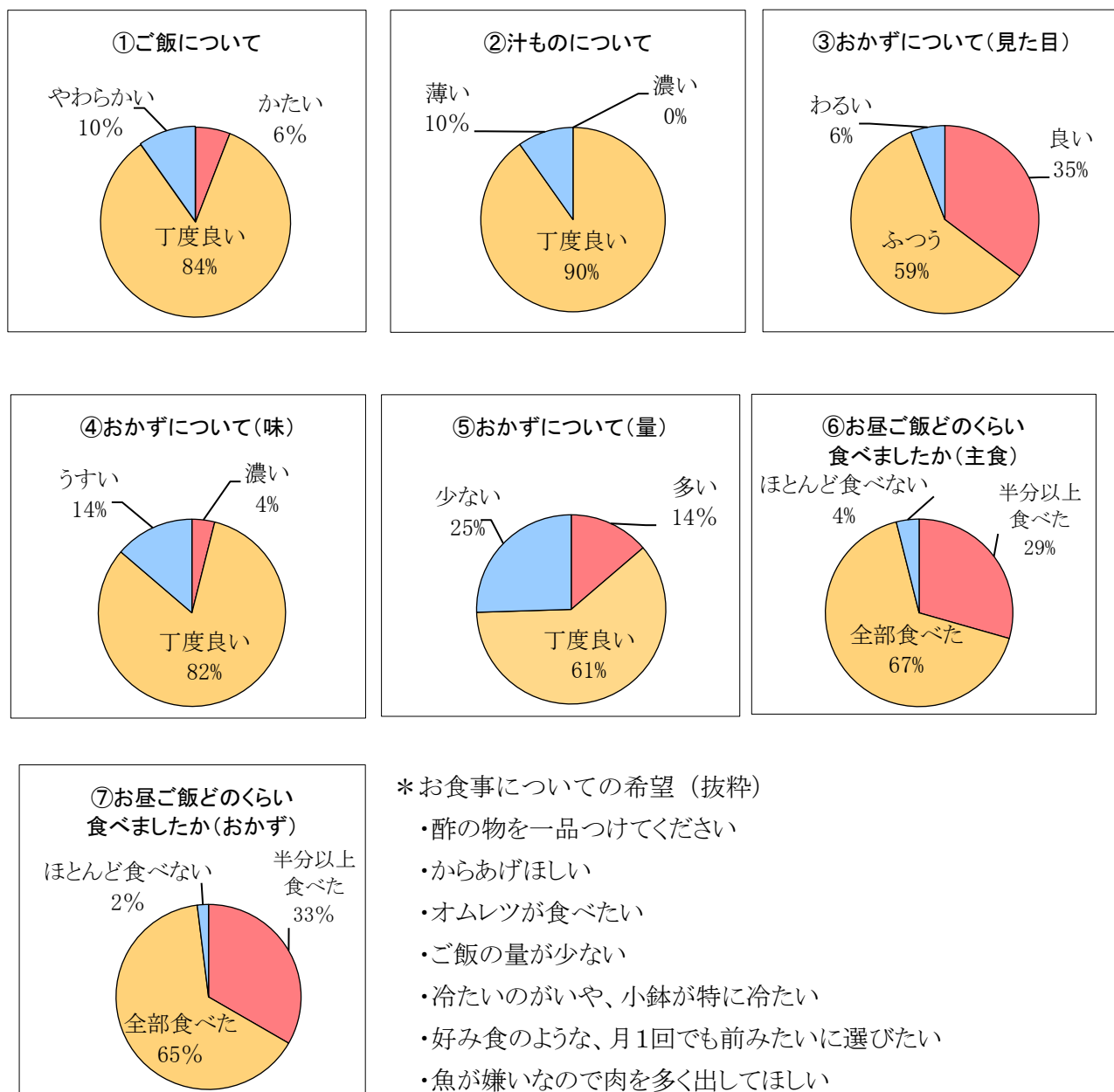
➤ 栄養管理部門

- 食材料費や人件費の高騰により、給食業務を取り巻く環境は厳しい状況にありましたが、業務内容の見直しを行い、継続かつ安定した食事提供に努めた。併せて、家庭的で季節感のある食事や、日常生活に変化や楽しみを感じていただけるよう、行事食や誕生日食の提供を実施した。
- 食中毒予防や感染症対策を徹底し、安全で安心な食事提供に努めた。
- 栄養ケアマネジメントの実施により、多職種と連携しながら利用者の健康維持に努めた。また、利用者一人ひとりの嚥下状態や身体状況に応じた食事形態の提供と、嗜好を考慮した食事提供に取り組んだ。
- 非常災害時に備え、非常食や使い捨て容器等の備蓄を3日分整備するとともに定期的な見直しと入れ替えを行い、災害時に全職員が適切に活用できる体制整備に努めた
- 子どもの成長の個人差に配慮し、家庭と連携しながら食事を通した心身の健やかな発達の支援に努めた。
- 本年度は委託業者の変更があり、業務体制や作業手順の見直しが必要となったが、関係職種との連携及び情報共有を密に行うことで、給食提供体制の早期安定化を図った。その結果、大きな混乱はなく円滑な食事提供を継続する事ができた。一方で、業務の調整や統一に時間を要することもあり、今後の課題として更なる連携強化と業務の標準化が求められる。

<R8 年 3 月 食事形態状況(個別対応)>



◇特養満足度調査（嗜好調査）結果 令和8年3月実施（n=51）



➤ ボランティア部門

昨年度に続きコーラス・オカリナ演奏・演歌ショーの慰問、有償の健康体操の訪問を定例的に実施でき、利用者の満足度向上に貢献できた。他、福祉財団紹介の慰問も実施いただけ、利用者には普段とは違うイベントに新鮮味をもって参加いただけた。喫茶ボランティアとして新たに1名加わり、利用者との関係づくりに励んでいる。

➤ 介護サービス支援室

行事の提案、慰問機会の均等配分について、各部署との相談のもと取組むことができた。車椅子などの事情で外出が難しいケースにおいても、送迎の余力の範囲内で協力を行うなど、家族のサポートに努めた。

また、ケアの質の向上とコスト意識向上を目指す一環として、排泄用品の刷新と褥瘡予防クッションの導入を図り、R8年4月度に合わせていずれも実施することができた。

①在園年数

・従来型

在園年数 (R8. 3. 31 現在)							単位：人
	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年～ 10年未満	10年以上	合 計
男性	2	8	2	0	1	0	13
女性	17	21	11	2	2	0	53
合計	19	29	13	2	3	0	66
平均在所日数 ■男性 3年0ヵ月 21日 □女性 2年4ヵ月 9日 平均 2年6ヵ月 0日							

・ユニット型

在園年数 (R8. 3. 31 現在)							単位：人
	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年以上	合計	
男性	4	4	0	0	0	8	
女性	9	13	6	1	2	31	
合計	13	17	6	1	2	39	
平均在所日数 ■男性 1年2ヵ月 15日 □女性 2年4ヵ月 12日 平均 2年1ヵ月 15日							

②利用者年齢構成

・従来型

利用者年齢構成 (R8. 3. 31 現在)								単位：人
	70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳 以上	合 計
男性	0	0	0	3	7	1	2	13
女性	0	1	5	6	14	21	6	53
合計	0	1	5	9	21	22	8	66

・ユニット型

利用者年齢構成（R8. 3. 31 現在）								単位：人
	70 歳未満	70 歳～ 75 歳未満	75 歳～ 80 歳未満	80 歳～ 85 歳未満	85 歳～ 90 歳未満	90 歳～ 95 歳未満	95 歳 以上	合 計
男性	0	0	1	1	4	1	1	8
女性	0	0	1	2	8	10	10	31
合計	0	0	2	3	12	11	11	39

・従来型

最低・最高年齢（R8. 3. 31 現在） 単位：歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	82	97	85.0
女性	72	98	85.7

・ユニット型

最低・最高年齢（R8. 3. 31 現在） 単位：歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	77	96	86.6
女性	77	103	91.5

③利用者の状況

・従来型

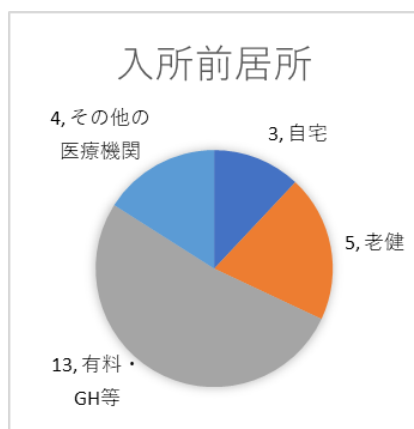
入退園の状況（年間）		
	性 別	年間合計数
新規 入園者	男性	6 名
	女性	19 名
退園者	男性	6 名
	女性	16 名

・ユニット型

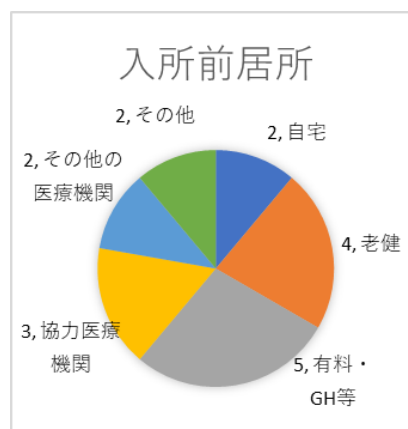
入退園の状況（年間）		
	性 別	年間合計数
新規 入園者	男性	6 名
	女性	12 名
退園者	男性	4 名
	女性	11 名

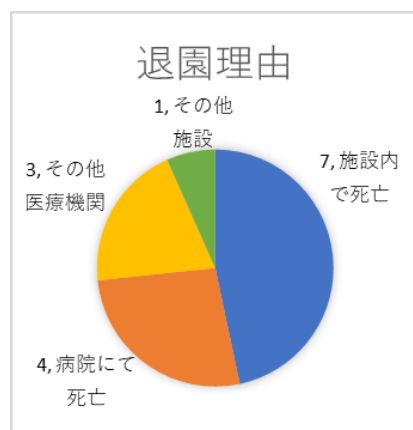
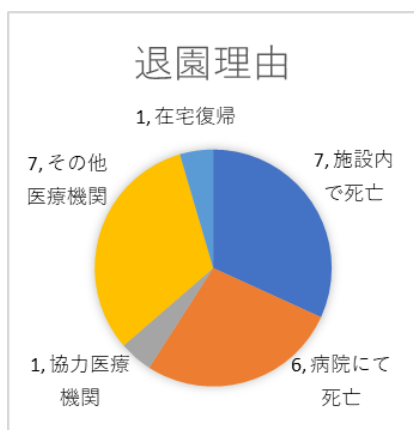
④入園前・退園理由の状況（単位：人）

・従来型



・ユニット型





⑤介護度別延べ人数

・従来型

利用者介護度別延べ人数 (R8 年 3 月 31 日現在)							単位：人
年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R7 年度	0	0	9729	12006	2946	24681	3. 7
R6 年度	0	0	11519	9861	2728	24108	3. 6

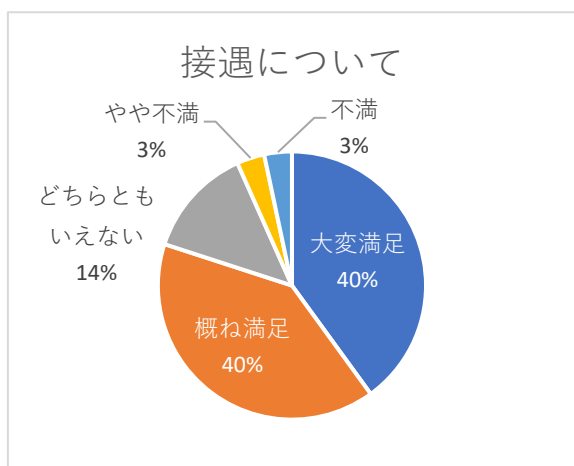
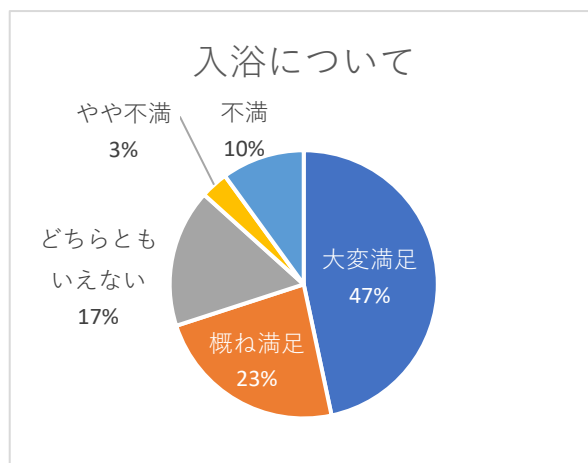
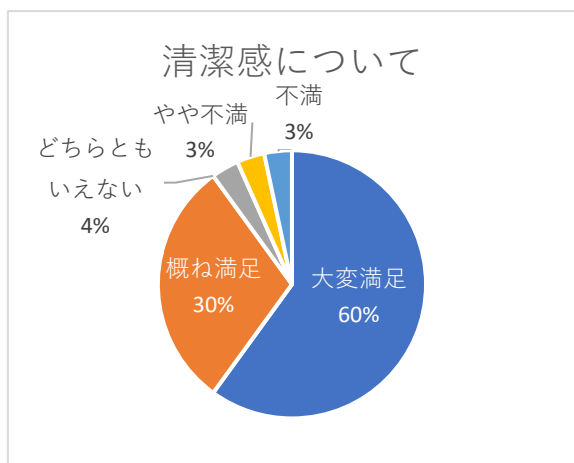
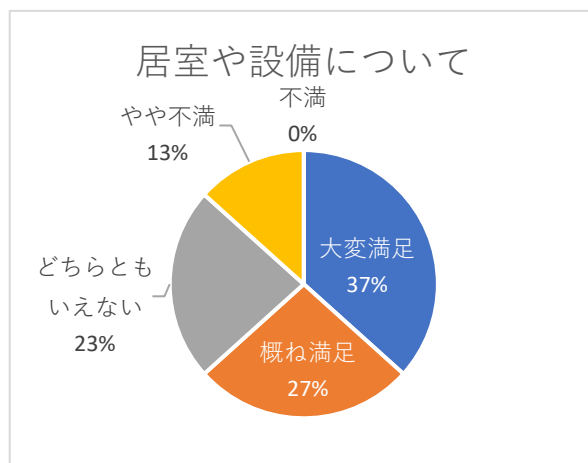
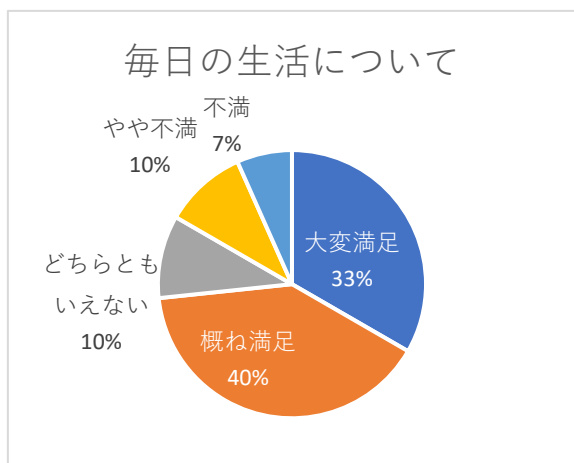
・ユニット型

利用者介護度別延べ人数 (R8 年 3 月 31 日現在)							単位：人
年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R7 年度	0	0	8160	3949	1341	13450	3. 5
R6 年度	0	0	7958	3818	1766	13044	3. 6

◇ 特養 満足度調査 （令和8年3月実施 n=30）

調査目的：利用者の生活向上、職員の意識向上のため利用者の満足度を調査し、より快適に生活して頂くため利用者にアンケートを実施した。

※下記5項目について、1.大変満足 2.概ね満足 3.どちらともいえない 4.やや不満 5.不満の5段階評価にて回答してもらった。



アンケートにて頂戴したご意見（抜粋）

〈毎日の生活について〉

- ・よくしてもらっている
- ・食事がおいしい
- ・自由が利かない
- ・副食を増やしてほしい

〈居室や施設の設備について〉

- ・必要な物が揃っている
- ・売店がほしい
- ・トイレが少なく混むときがある
- ・トイレの臭いが気になることがある

〈施設の清潔感〉

- ・綺麗にしてくれている
- ・清掃のスタッフが行き届いている
- ・トイレや洗面台が汚れていることがある

〈入浴全般について〉

- ・職員が付いているので安心して入れる
- ・肩まで浸かって温まれる
- ・冬は浴室が寒く感じる
- ・同性に介助してもらいたい

〈職員の接遇について〉

- ・丁寧に接してもらえる
- ・相談によく乗ってもらえる
- ・朝、あいさつ無く照明だけ点けていく人がいる
- ・人により細やかさに差がある

b 特別養護老人ホームならやま園

令和7年度は、利用者一人ひとりに寄り添ったケアの実践や生活環境の工夫を通じて、安心して過ごせる生活の場の提供に努めた。また、研修参加や職員面談を通じた人材育成、IT機器の活用による業務効率化を進めることで、職員の負担軽減とケアの質の向上に繋げた。さらに、防災訓練や研修の実施により災害時への備えの強化を図った。今後もこれらの取組を継続し、より質の高いサービス提供体制の構築を目指していく。感染症については、令和7年度も感染症の脅威から利用者、職員を守れるよう、気を緩めることなく感染症対策を意識した一年であった。大きなクラスターは過去の経験を活かし、最小限に抑えることが出来たが、引き続き、日頃からの感染対策の意識強化に努めていく必要性を感じている。

➤ 介護部門（従来型・ユニット型特養）

■ 認知症ケアの充実

利用者一人ひとりの心身の状態や生活歴を踏まえた個別ケアの実践に努め、思いや意向に寄り添った支援を行った。日常的な関わりの中で安心感を持って過ごせるよう配慮し、落ち着いた生活環境の維持に繋げた。また、生活空間についても家庭的な雰囲気づくりを意識し、利用者が自分らしく過ごせる環境整備を進めたことで、生活の質の向上に一定の成果が見られた。

■ 人材育成・研修の充実

施設内外の研修へ積極的に参加し、専門知識や技術の習得に努めた。研修で得た内容については現場内で共有し、日々のケアへ反映させることで、職員全体のスキル向上に繋げた。

また、定期的な職員面談を通じて個々の役割や目標の明確化を図り、意欲向上や働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。その結果、人材の定着や組織力の強化に一定の効果が見られた。

■ IT機器の導入について

記録業務や情報共有においてIT機器の活用を進めたことで、業務の効率化が図られ、職員の作業負担軽減に繋がった。これにより、利用者に関わる時間の確保がしやすくなり、ケアの質の維持・向上にも寄与した。また、情報の即時共有が可能となり、安全管理の面でも効果が見られた。

■ 地域の防災拠点としての役割

災害時を想定した訓練および研修を計画的に実施し、職員間での対応手順の確認と共有を行った。

訓練を通じて課題の抽出と改善に取り組むことで、緊急時への備えを強化することができた。引き続き、地域の防災拠点としての役割を意識し、実効性のある体制整備を進めていく。

①在園年数（R8. 3. 31 現在）

	1 年未満	1 年～ 3 年未	3 年～ 5 年未	5 年～ 7 年未	7 年～ 10 年未	10 年以上	計
男 性	8 名	5 名	5 名	0 名	1 名	1 名	19 名
女 性	18 名	16 名	13 名	12 名	4 名	1 名	64 名
合 計	26 名	21 名	18 名	12 名	5 名	1 名	83 名

②利用者年齢構成（R8. 3. 31 現在）

区分	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男 性	0 名	1 名	2 名	4 名	4 名	5 名	3 名	0 名	19 名
女 性	1 名	1 名	4 名	5 名	25 名	16 名	11 名	1 名	64 名
合 計	1 名	2 名	6 名	9 名	29 名	21 名	14 名	1 名	83 名

最低・最高年齢（R8. 3. 31 現在）

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	73 歳	97 歳	88.6 歳
女性	68 歳	103 歳	90.2 歳

入退園の状況（年間）

	性別	年間合計
新規利用者数	男性	12 人
	女性	20 人
退去者数	男性	11 人
	女性	18 人

③利用者介護度別延べ人数（従来型）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R7 年度	0	0	7,759	7,773	3,681	19,213	3.8
R6 年度	0	0	7,443	7,606	3,586	18,635	3.8

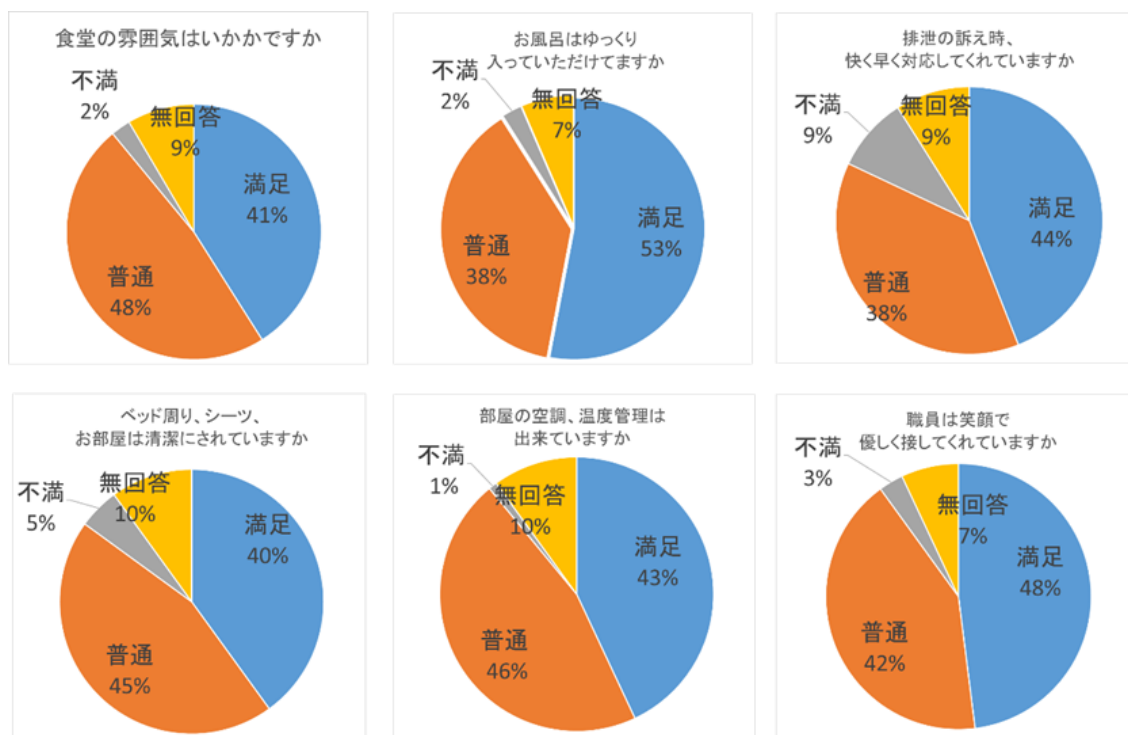
（ユニット型）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R7 年度	0	0	3,449	4,349	2,613	7,485	3.9
R6 年度	0	0	2,727	5,201	2,300	10,228	4.0

◇ 特養 満足度調査（令和 8 年 3 月実施 n=80）

ならやま園では利用者の生活向上、職員の意識向上のために毎年、利用者から満足度調査を行っている。今年度の結果を報告する。

※下記 5 項目について、1. 満足 2. 普通 3. 不満 4. 無回答 の 4 段階評価にて回答してもらった。



➤ 看護部門

■ 安心できる医療と看取りの提供について

令和7年度は12名の方を園内で看取った。この数年は十数名の方を園で看取っている。「自然な姿で最期を迎えたい」「慣れた場所、顔を知っている職員がいるところがいい」とおっしゃる家族も多い。家族の意向に沿うように話し合いの機会を作った。

■ 感染予防行動と環境整備について

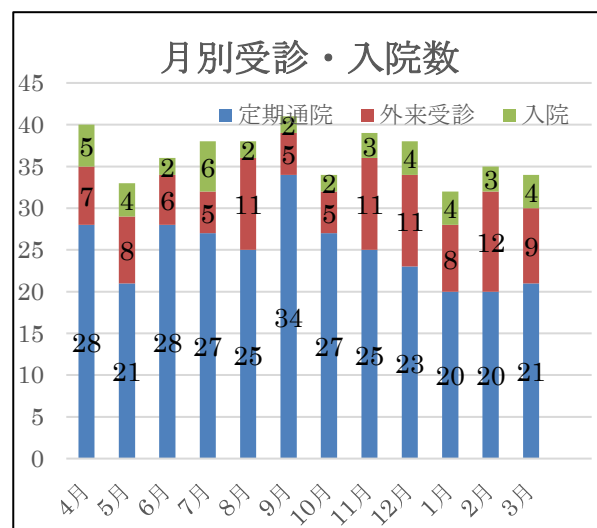
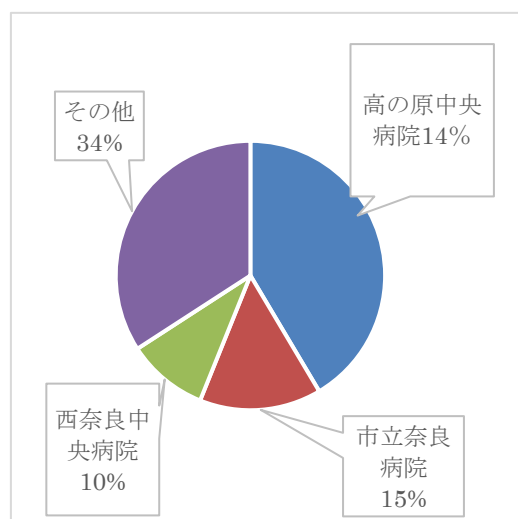
新型コロナウイルスによる小規模クラスターが8月に既存2階フロアで（入園者2名、職員2名）発生、インフルエンザウイルスによるクラスターが11月に既存3階フロアで（入園者14名、職員4名）発生した。また、感染性胃腸炎（ノロウイルス）によるクラスターが1月に既存2階で（入園者10名、職員7名）、2月に3階で（入園者20名、職員6名）発生した。新型コロナウイルス、インフルエンザウイルスのクラスターは約2週間で終息したが、ノロウイルスによるクラスターは終息に約1か月を要した。感染経路が異なるノロウイルスに対する予防行動が十分に取れず、保健所の指導のもとマニュアルの見直しを図った。

■ 職員のメンタルヘルス・フィジカルヘルスを守る

ストレスチェックによる高ストレス者は7名で、産業医との面談者は2名であった。ストレスチェックの回収率は95%であった。フィジカルヘルス

においては、有所見者 91 名と多く、多くは高血圧と脂質異常の所見であった。メタボリックシンドローム予備軍が多く、検査結果のフィードバックと健康指導が必要である。

■ 医療機関への受診・入院状況



➤ 機能訓練

- 入居者及び家族の意向を尊重し「身体機能」「精神機能」の維持・向上を図るため主観的及び客観的評価を行い、科学的根拠に基づいた「個別機能訓練」を実施した。
- 適切な「個別機能訓練」を実施することにより動作能力の向上に繋がった。しかし中には訓練拒否が強く実施困難な利用者もあり、動作能力低下、拘縮進行の事例もあった。
- 家族の希望により、少しでも入居者の状態向上が図れるよう「家族ができる訓練」や「日中の過ごし方」の指導・助言を行った。
- 個々の日常生活動作能力の維持・向上が図れるよう、介護士と連携し、「生活リハビリ」のプランを決定、適宜見直しや介護士への指導・助言を行った。
- 入居者が安全安楽に過ごせるよう、適切な「ポジショニング」や「シーティング」を行い、状況に応じて福祉用具の見直しを行った。
- 介護業務支援ソフトを使用し、多職種連携の基「個別機能訓練計画書」を作成した。また、「科学的介護情報システム (LIFE)」を活用し「個別機能訓練加算 (Ⅱ)」を取得した。
- 令和 7 年度途中からは、感染症隔離フロアにて、感染症対策を行いつつ、隔離期間中の利用者の活動範囲制限による機能低下防止のため、積極的に機能訓練の介入を実施した。

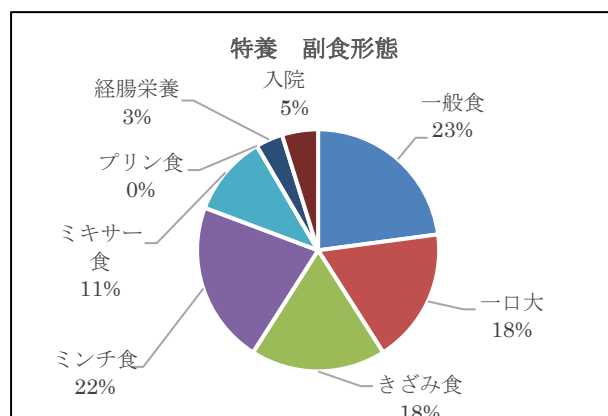
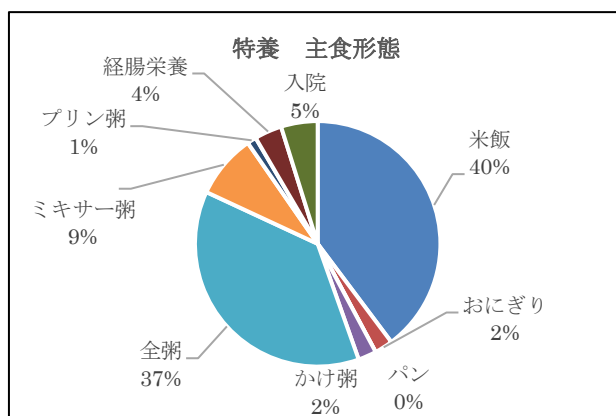
(単位：人)

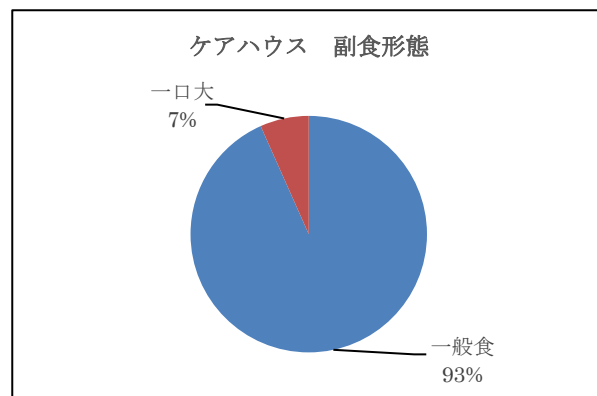
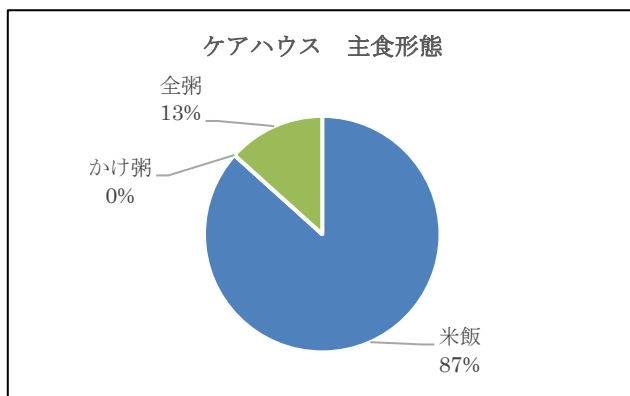
	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			合計
	従来型	ユニット型	合計	従来型	ユニット型	合計	
R7 年度	1,770	819	2,589	288	148	436	3,025
R6 年度	1,517	375	2,270	228	207	435	2,705

➤ 栄養管理部門

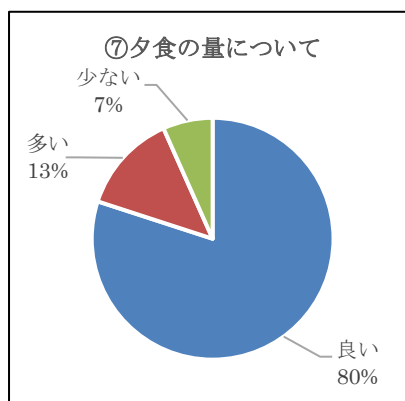
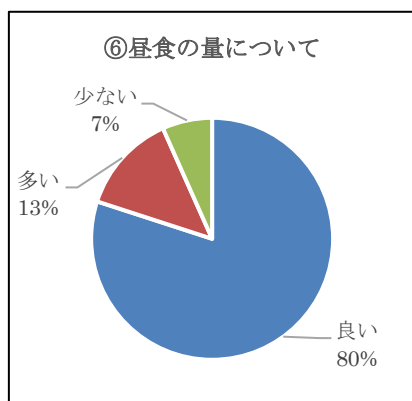
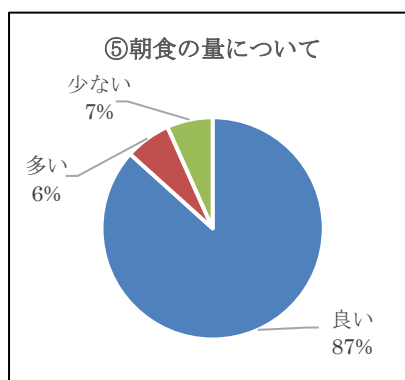
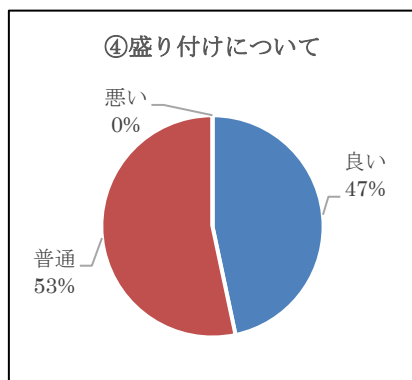
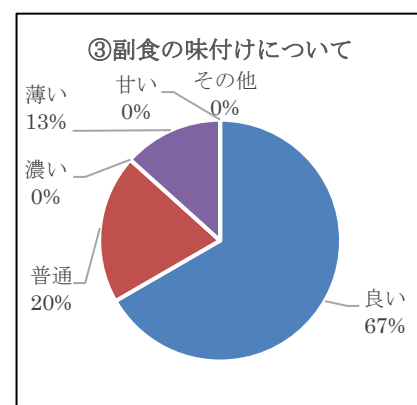
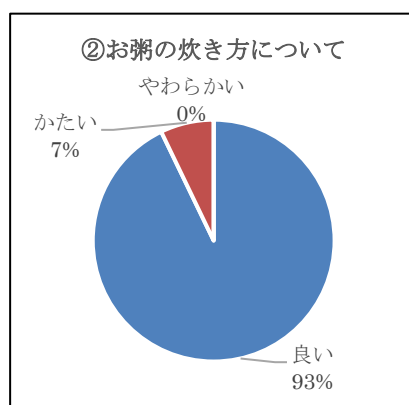
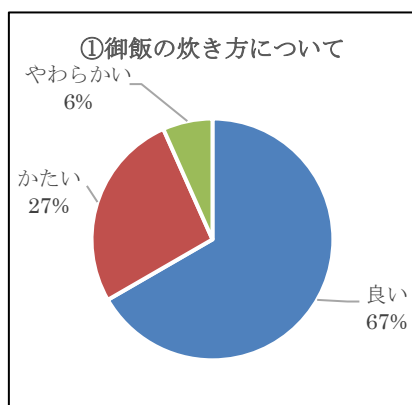
- 多職種協働で個々の利用者の状況に対応した食事提供に取り組み、特養利用者に栄養ケアマネジメントを実施できた。食事療法が必要な方には療養食の提供も行った。今後も利用者が健康を維持して頂けるよう取り組む。
- 家庭的で季節感のある食事や、誕生食、行事食等の実施により、日常生活に変化や楽しみのある食事の提供を行った。食材料費や人件費の高騰により給食業務が厳しい状況から見直しがあり、令和7年6月より給食委託業者の変更があったが、円滑に継続移行することができ、安全で喜ばれる食事の提供に努めた。
- 喫食状況を確認し、利用者や職員と会話をする中で嗜好や嚥下状態等を把握し、献立や調理、盛付等、食事内容の向上に取り組んできた。
- 大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理に努めてきた。食中毒予防や感染症対策など安全な食事の提供に施設全体で取り組みを行うことができた。
- 非常食を使い捨て容器と共に備蓄している。委託業者変更に伴い備蓄内容を見直し、令和8年1月より利用者3日分の備蓄から利用者4日分の備蓄に改善することができた。備蓄内容について給食会議で周知を行った。

食事形態（令和8年3月31日夕食現在）





◇ケアハウス満足度調査（嗜好調査）結果
令和8年1月実施 回答率100%



⑧今後希望される料理

- ・天ぷら（2名） ・熱々の天ぷら ・刺身（2名） ・スパゲティ（2名）
- ・そうめん ・鶏肉入り信州そば ・麺類 ・野菜とソーセージのチャーハン
- ・鶏料理 ・中華料理 ・豚汁 ・粕汁 ・冬の鍋物

⑨食事についての満足度を100点満点で評価

平均 81.1 点

⑩その他、食事に関する意見、希望（抜粋）

- ・美味しい食事をいつもありがとうございます。
- ・物価高の折、本当に御苦労があると思います。本当にありがとうございます。
- ・御飯をもう少しやわらかくして欲しい。 ・野菜の味付けが薄い。
- ・御飯がやわらかい。かたくして欲しい。
- ・お魚がかたい。やわらかく焼いて欲しい。
- ・甘いデザートより、野菜を多めにして欲しい。

➤ ボランティア部門

令和7年度のボランティア活動は、特養・ケアハウス・デイサービスの利用者への、喫茶の提供とおやつ販売、慰問やイベント、移動スーパーに関する手伝いなどの援助を実施した。引き続き利用者を癒せる援助に取り組んでいく。

② ショートステイサービス

a 平城園ショートステイサービス

令和7年度においても利用者の要望に応じた部屋調整を行い、期待に沿ってサービスを利用いただくことが出来た。期中、定期利用者の死去や特養入所での利用停止は生じたが、新規利用者の獲得、入所待機者の長期利用への移行等に取り組み、稼働率の維持に努めた。自法人を含め、各居宅介護支援事業所と密に連絡を取り合い、緊急受け入れ要請においても可能な限り対応した。

利用者や家族から接遇面でご意見をいただいた際は現場職員と共有し、状況の振り返りと課題解決にあたった。

	延利用 日数	利用者 数	介護度別利用日数						
			要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5
R7 年度	3292	353	0	7	159	646	1497	929	54
R6 年度	2925	350	4	15	181	972	1093	573	87
増減	367	3	-4	-8	-22	-326	404	356	-33

b ならやま園ショートステイサービス

令和7年度は、ショートステイ再開後の安定運営を図りながら、ICT活用や業務改善により効率化とサービスの質の向上に努めた。新規利用者の確保や緊急受け入れにも対応し、環境整備や連携強化を通じて、安全で安定したサービス提供に繋げた。

➤ 職員の確保・人材育成・サービスの質の向上

職員確保が困難な状況においても、ICT機器の活用により業務の効率化を図り、サービスの質の維持・向上に努めた。また、多様な利用ニーズに対応できるような業務の見直しや改善を行い、適切な支援体制の構築に取り組んだ。

➤ 各事業所へ営業活動を行い、新規利用者の受け入れ、継続利用

各事業所と連携や調整を行いながら、新規利用者の受け入れを進めることができた。加えて、緊急の受け入れにも積極的に対応し、地域ニーズへの対応力の強化に繋がった。また利用者および家族からの要望や意見についても迅速に対応し、課題解決に努めることで、継続利用の促進と信頼関係の構築を図った。

➤ 安心・安全にご利用頂ける、利用者目線で過ごしやすい環境・空間づくり

利用者の心身状態に応じて、安心して過ごせる生活空間の提供に努めた。事故防止の観点から日常的な見守りや環境整備を徹底し、安全に配慮したサービス提供を継続することができた。

➤ 平城園ショートステイサービスと連携を図り、相互に協力していく

平城園と連携を図り、情報共有や調整を行いながら円滑な受け入れ体制の構築に努めた。その結果、相互利用の促進に繋がり、利用者確保およびサービス提供の安定化に寄与した。

	延利用日数 (日)	稼働率 (%)	延利用 数(人)	介護度別利用日数(日)							
				区変 中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
R7年度	4,414	75.6	288	0	2	5	154	83	1,942	1,573	655
R6年度	2,421	41.5	125	0	3	0	4	58	1,216	1,076	64
増減	+1,992	+34.1	+163	±0	-1	+5	+150	+25	+726	+497	+591

③ グループホーム アクル

令和7年度においては開設3年目を迎えた。

日々のサービス、認知症ケアの実践を通じて利用者及び家族の関係性もより強固なものになったが、令和8年度以降においても引き続き質の高いサービス、認知症ケアの実践に向けて関わりを深めていきたい。

➤ 認知症ケアの充実

認知症ケアの専門性をより高めるため「奈良県認知症介護実践者研修」「同リーダー研修」を修了した職員を中心に、入居者個々のニーズや心身の状態、また入居者の生活歴や家族歴、歩んでこられた人生の歴史を尊重したケアの提供に努めている。

引き続き、深みのある認知症ケアの実践に努めていきたい。

➤ 地域に根付いたホームづくり

開設以降、2カ月に一回定期的に運営推進会議を開催している。自治連合会長民生委員代表、包括支援センター職員、入居者家族が参加し、施設運営に関して積極的な意見交換を行い、サービスの質の向上、地域における関係づくりに努めてきた。

引き続き、定期的な会議の運営を通じて、より地域に根付いたホームとなるよう努めていきたいと考える。

➤ 安定した施設運営を目指す

開設当初は人員体制の都合により1フロア（9名）の稼働となっていたが、職員の採用が進み、本年度は、2フロア目においても満床を維持することができた。引き続き、入居者が少人数・家庭的な雰囲気の中で安心感を得ながら、穏やかに生活していただける環境づくりに努めていきたい。

④ 軽費老人ホーム

a ケアハウス ニューライフならやま

「高齢者の住まい（住宅）」として地域や入居者に喜ばれる事業所を目指すために、従前の特養との連携メリットを残しながらも、住宅部他事業所との連携の強化を図った。

住宅部全体として営業を行うなど空室が出た際のフォローアップ体制を整え、春先以降は待機者を作り安定した運営を行うことができた。コロナ前の個別外出の機会や、住宅部合同でのイベントの機会を設けるなど、入居者の生活の質向上にも目を向け、体系づくりの基礎を作ることができた。また、独立した事業所として単独で体制を整えることは難しく、独立したBCPを作成するという意味ではまだ特養に依存する部分が多く課題が残った。

介護度（令和8.3.31現在）

	自立	要支援	介護1	介護2	介護3～5	合計
男 性	0名	0名	1名	1名	0名	2名
女 性	0名	3名	2名	6名	2名	13名
小 計	0名	3名	3名	7名	2名	15名

⑤ サービス付き高齢者向け住宅

a サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠

人材育成の上から現場相談員業務について部分的に委譲をし、複数人体制で事務業務と入居者支援業務担当者を配置し、事業所としての新陳代謝を図り後任育成のためにチャレンジできる環境づくりに取り組んだ。事務業務の点においては新料金対応を含め一定の成果を見出すことができたが、入居者支援面においては現認者に依存する部分が多く年度内に実務を完全に委譲すること、移譲されている業務の質を担保するには至らなかった。

運営面では春先から入居者の ADL の低下に対するサービス量の増加と、食事料金の改定を含む新料金体制導入とのバランスやタイミングから、例年よりも多くの解約者を出すことになった。年度を通じて解約の波は落ち着かず社会情勢に応じ、機を逃さないよう料金改定していくことの大切さを感じる一年であった。

入居者の満足度向上のため、運営懇談会の開催を導入した。地域のサロン活動や be サポーターズ活動への参加、保育園との交流の機会も増加し、新たな法人内外のツールを活用して社会参加の機会を増やし喜んでいただいた。

・月別入居契約数（毎月 1 日時点）

月	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3	平均
契約戸	46	46	46	42	43	43	44	43	41	38	39	40	42.5
契約率	100	100	100	91.3	93.4	93.4	95.6	93.4	89.1	82.6	84.7	86.9	92.3

・年度内退去者 14 件 14 名（男性 3 名 女性 11 名）

退去先内訳 ・法人内特養 4 名 ・アクール 2 名 ・長期入院 1 名 ・死去 1 名 ・
・自宅、地域 1 名 ・介護付き有料 4 名 ・居室変更 1 名

・年度内契約者 8 件 10 名（男性 3 名 女性 7 名）

契約動機内訳 ・法人内紹介 1 名 ・グレイスから希望居室へ転居 1 名
・他法人居宅紹介 3 名 ・地域の事業所 2 名 ・居室変更 1 名

・契約者数内訳：人（性別）※R8.3.31

性 別	契約数
男性	8
女性	35
合計	43

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく）※R8.3.31

年代	65 歳未満	65 歳以上 75 歳未満	75 歳以上 85 歳未満	85 歳以上	合計
合計	0	1	9	34	43

・介護度別内訳：人（重要事項説明書に基づく） 平均介護度：介護 1 ※R8. 3. 31

介護度	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
合計	0	6	11	10	11	3	2	0	43

・福寿会在宅部門利用者数

内訳 ・居宅…25 名 ・訪問介護…20 名 ・訪問リハ…1 名 ・通所介護…6 名
・通所リハ…4 名

・食事 契約者数…38 名 3 食自炊…5 名

・食事提供数 (単位：食)

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	760	625	539	641	676	624	650	590	568	548	449	508	7178	598	19. 6
昼食	789	743	690	742	779	701	709	632	591	609	491	560	8036	669	22. 0
夕食	1070	1003	912	1012	1027	974	1030	897	928	887	751	855	11346	945	31
月合計	2619	2371	2141	2395	2482	2299	2389	2119	2087	2044	1691	1923	26560	2213	72. 7

・生活相談件数

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
件数	331	328	324	313	323	310	332	321	311	296	286	264	3739	311

・健康相談件数

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・有償サービス利用件数

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
件数	94	108	102	98	112	89	85	78	81	76	75	66	1064	88. 6

・入居活動件数

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
営業	34	33	36	33	56	30	36	32	33	22	35	28	408	34
問合せ	3	3	4	4	3	3	4	3	3	4	4	3	41	3. 4
見学	3	4	4	3	4	3	4	4	5	4	4	4	46	3. 8
見学者	5	6	6	5	6	6	8	7	8	6	7	7	77	6. 4
入居相談 面接	7	7	8	6	5	6	7	7	6	6	7	5	77	6. 4

・イベント実施報告

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
実施数	21	22	23	23	26	23	24	23	24	23	20	24	276	23
参加者	223	201	222	239	253	235	244	219	298	263	231	256	2884	240. 3

・生活支援バス利用者数

	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3	合計	月平均
利用者	188	209	215	226	218	236	239	228	218	228	176	234	2912	242.6

b サービス付き高齢者向け住宅グレイス福寿

早期の満床と現任者に代わるような人材育成を２本柱として、積極的に業務移譲を行うなどこれまでにないチャレンジができる環境づくりに励んだ１年であった。日常業務をおろそかにしないように、入居者への支援体系も維持しつつ営業や定期的な入居説明会の開催など、現場を離れる業務に時間を割く中で、全職員がフォローをし合いながら取り組んだが満床という目標は果たすことができなかった。

オープン１年後に実施せざるを得なかった料金改定により入居希望者の入居費想定にずれが生じ、地域のケアマネに再周知を行う必要もありロスを生んだことも一因となったが、社会情勢に合わせて適切な時期に料金改定を行っていくことの大切さを学んだ。また、結果として業務移譲を完遂させることはできなかったが、そこへ向けての過程の中で職員間のコミュニケーションが増え、お互いの理解を深めることができたことは収穫であった。新たなチャレンジによって得たものを、次年度に活かしていきたい。

・月別入居契約数（毎月１日時点）

月	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3	平均
契約戸	24	27	29	31	32	32	33	36	38	40	41	43	33.8
契約率	47.0	52.9	56.8	60.7	62.7	62.7	64.7	70.5	74.5	78.4	80.3	84.3	64.7

・年度内退去者 7件 8名（男性 2名 女性 6名）

・年度内契約者 24件 26名（男性 8名 女性 18名）

契約動機内訳 ・法人内紹介 3件・他事業所 1件・地域包括 2件・居室変更 2件
・他法人居宅紹介名 13件・紹介業者 2件・インターネット1名

・契約者数内訳：人（性別）

性別	契約数
男性	13
女性	33
合計	46

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく）

年代	65 歳未満	65 歳以上 75 歳未満	75 歳以上 85 歳未満	85 歳以上	合計
合計	2	0	11	33	46

・介護度別内訳：人（重要事項説明書に基づく） 平均介護度：介護 1

介護度	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
合計	6	3	8	18	10	1	0	0	46

・福寿会在宅部門利用者数

内訳 ・居宅… 18 名 ・訪問介護… 14 名 ・訪問リハ… 1 名

・通所介護…18 名 ・通所リハ…3 名

・食事 契約者数… 43 名 3 食自炊… 3 名

・食事提供数

（単位：食）

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	649	688	761	773	722	722	777	772	836	871	897	1026	9494	791	26. 0
昼食	462	473	545	563	530	554	567	617	705	752	754	858	7380	615	20. 2
夕食	720	747	831	833	793	809	865	862	969	1044	1058	1211	10292	857. 6	28. 1
月合計	1831	1908	2137	2169	2045	2085	2209	2251	2510	2667	2709	3095	27616	2301	75. 6

・生活相談件数

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
件数	117	121	123	131	128	116	127	118	121	129	131	141	1503	125. 2

・有償サービス利用件数

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
件数	15	17	19	23	24	26	29	31	33	36	38	41	332	27. 6

・入居活動件数

	R7. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8. 1	2	3	合計	月平均
営業	98	108	121	119	108	120	104	92	120	22	35	28	1075	89. 5
問合せ	9	11	12	11	11	9	10	11	10	10	9	8	121	10
見学	10	10	9	11	11	9	11	10	10	12	8	9	120	10
見学者	13	14	13	14	16	11	13	13	14	16	14	11	162	13. 5
入居相談 面接	13	14	13	14	15	10	12	13	14	16	13	10	157	13

・イベント実施報告

	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3	合計	月平均
実施数	21	22	21	23	26	23	24	23	24	21	20	22	270	22.5
参加者	90	91	99	141	118	121	139	140	138	158	163	154	1462	121.8

・生活支援バス利用者数

	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3	合計	月平均
利用者	23	26	31	32	38	41	46	58	63	71	83	91	603	50.2

(2)通所系

① デイサービス

a 奈良デイサービスセンター

➤ 営業力強化について

特に外部のケアマネジャーへの活動報告等、広報誌を持ての営業活動を実施、利用者やケアマネジャーへ見学をすすめ、前年度に比べ外部ケアマネジャーからの紹介がおおよそ 10%UP を達成できた。

➤ 保育・住宅部と交流

福寿会マミーズ保育園の散歩コースになり、定期的に子どもたちと触れ合う機会があり利用者から好評を頂いている。住宅の入居者とは移動販売での交流はあったが頻度としては少なかった。

➤ BCP を意識した業務や人材の育成

様々な場面を想定し役職で役割の共有と業務分散を行った。業務体制では少ない人員で支援にあたる際のリスクと優先順位の共有を行った。

研修については WEB 研修を定期的に開催した。今後は外部研修への参加も検討していきたい。

要介護度別延利用者数

年度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	営業日数	平均/日
R7 年度	942	2241	2254	1538	812	291	8078	307	26.31
R6 年度	995	2428	1691	1070	996	396	7576	307	24.67
増減	-53	-187	+563	+468	-184	-105	+502	0	+1.64

b ならやま園デイサービスセンター

- 日頃より密な情報収集及び、共有することで利用者、家族、ケアマネージャーから安心して任せてもらえるサービスの提供に努めた。また利用者の写真等を定期的に配信することでより雰囲気伝える事ができた。
- インスタグラムを中心に、ならやま園デイサービスを知ってもらうための発信や、目に止まるチラシを作成する等、営業により新規利用者の獲得に繋がった。
- 余暇時間や隙間時間の充実を中心に、プログラムを再検討し実施を図った。自ら参加出来にくい方にも職員のサポートで楽しんでいただけたようになった。
- コスト面を考慮し節電やゴミの分別、再利用を実施した。また老朽化している備品もあり適切な取扱いを周知しつつ今後は環境面を見直していきたい。

要介護度別延べ利用者数								合計	営業日	平均/ 日
年度別	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	身障			
R7年度	493	1,780	2,579	1,861	767	528	0	8,008	308	26.00
R6年度	488	924	1,832	1,705	781	498	0	6,228	308	20.22
増減	+5	+856	+747	+156	-14	+30	0	+1711	0	+5.56

c あきしの整形外科クリニックデイケアセンター

- 令和7年度は、利用者数が47名から108名へと61名増加し、累計利用者数は100名を超えた。一日平均利用者数についても、約9名から約28名へ大幅に増加している。送迎体制およびデイケア内の運営とのバランスを図りながら、安定的に利用者数を伸ばすことができた。リスク管理への対応を継続的に実施し大きな問題は発生しなかった。今後も、デイケア内におけるリハビリ内容の質の向上と送迎体制の円滑化を推進し、さらなる利用者数の増加を目指す。

	介護度別利用人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	介護度別合計
要支援1	50	53	57	70	66	77	88	98	110	118	114	124	1025
要支援2	68	97	93	109	105	124	144	169	185	206	234	284	1818
要介護1	51	56	64	75	74	103	94	88	83	80	90	73	931
要介護2	33	38	40	45	39	59	70	52	68	64	62	75	645
要介護3	0	0	0	0	7	8	8	7	8	6	6	8	58
要介護4	4	2	0	2	1	5	2	0	0	0	0	0	16
月別延べ人数	206	246	254	301	292	376	406	414	454	474	506	564	4493

(3)訪問系

① 訪問介護ステーション

a 平城園ホームヘルプステーション

- 接遇研修を行い訪問介護員の接遇向上に取り組んだ。利用満足度アンケートについては、94%の利用者が「大変満足・満足」という結果であった。
- 訪問介護員の人材確保については SNS での発信なども積極的に行ってきたが、今年度退職者 2 名に対し採用できたのは 1 名と、人材確保が引き続きの課題である。
- 奈良市の子育て支援事業は利用基準の緩和により増加傾向にあり、今年度の訪問時間は 295 時間と昨年度より 57 時間増であった。子育て支援事業を通して地域に貢献することができた。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R7 年度	5,174 件	1,635 件	6,809 件
R6 年度	5,523 件	1,681 件	7,204 件
増減	-349 件	-46 件	-395 件

b ならやま園ホームヘルプステーション

- 利用者の尊厳を守り、個々に応じた身体介護、生活介護と、寄り添ったケアを提供した。地域の利用者及び家族、他事業所と信頼を築くよう努めた。
- 新規受託は可能な限り受け、収益を上げるよう努めたが、慢性的な人材不足に加え、訪問介護員の退職があり 13 名体制での活動となった。訪問介護員の確保は引き続き課題となった。
- ペーパーレス化に向けた取り組みは定着し、利用者への請求書に関してもペーパーレス化が普及した。訪問介護員の記録アプリの活用も実践できた。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R7 年度	5,341 件	1,880 件	7,228 件
R6 年度	5,971 件	1,558 件	7,529 件
増減	-623 件	+322 件	-301 件

② 訪問リハビリテーション

a 平城園診療所訪問リハビリテーション

b あきしの整形外科クリニック訪問リハビリテーション

利用者および家族の意向を真摯に汲み取り、在宅生活の継続に不可欠な身体機能の維持・向上、および動作指導を徹底した。一人ひとりの状態を主観・客観の両面から評価し、適切なゴール設定に基づいた計画的な介入を実施。医師や介護支援専門員との緊密な連携により、地域包括ケアシステムの一翼として自立支援と社会参加を促進し、利用者からも高い満足度を得ている。

訪問リハビリテーション介入により機能・能力の改善が見られる方には、クリニックの併設施設である通所リハビリテーションの利用を勧め、社会参加の機会と更なる機能・能力の改善を促した。また、通所リハビリテーションを希望された方で病態やその進行等により利用が難しい方には訪問で介入を行い、改善が見られてから通所リハビリテーションに戻っていただく等、適切なサービス提供体制が整備できた。

利用件数

R7 年度	457 件
R6 年度	448 件

(4) 居宅介護支援事業所

a 平城園在宅介護支援センター

令和7年度は新たな4人体制での再スタートとなった。年度初めの4月から年度末の翌年3月までの収益はすべての月において前年度を2割から3割上回る好調さで推移した。各地域包括支援センターからの新規ケースの受託件数も好調で11月以降は介護予防の受託件数は合計で90名を超えている状態を維持している。

➤ 介護支援専門員の専門性の向上

1. 医療機関との連携の強化⇒医療連携アプリの活用。
2. 地域包括支援センターからの困難ケースの受託⇒7年度は2件受託。
3. 外部の研修および会議への積極的参加⇒外部の法定研修、ヤングケアラー、障害者、生活困窮者、難病患者などの研修にも積極的に参加。
4. 介護支援専門員実務者研修受け入れ⇒令和8年3月末に1名を受け入れ。
5. 圏域内の他の居宅介護支援事業所との勉強会⇒R7年度は計3回実施。
6. 毎週火曜日の部署内定例会議⇒月平均4回開催し情報共有。
7. 公正中立なサービス選択について⇒年に2回、6カ月毎に集計し説明。
8. 24時間連絡可能な体制の維持、確保⇒全員が社用のスマートフォンにて休日と夜間にも対応。

➤ 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みへの参画

地域包括ケアシステムにおける多職種連携については、毎月1回、WEB形式で開催される自立支援型ケア会議に参加

・利用者延件数(ケアプラン作成) (単位：件)

	予防(件)	介護(件)	合計(件)
R7 年度	1,145	1,804	2,949
R6 年度	976	1,513	2,489
増減	+169	+291	+460

b ならやま園居宅介護支援事業所

令和7年度は新人職員を含む4人体制となり、昨年度以上に人材の指導・育成や組織力の向上に注力した。下半期には主任介護支援専門員の資格を取得した職員もあり、今後の業務および人材の育成・指導に期待が持てる年度となった。

- 地域包括支援センターとの連携と支援困難ケースの受託について
介護予防ケアマネジメントに関しては奈良市9包括との給付管理を伴う連携や情報共有を行い、積極的に支援困難ケースの受託に努めた。また、地域包括支援センター主催の自立支援地域ケア会議(リモート)で計6回出席した。
- 業務の効率化とケアマネジメントの質の向上について
今年度は事業所内会議を計44回開催し、情報共有や研鑽の継続に努めるとともに、同圏域の他居宅介護支援事業所との勉強会を4回行い、情報交換を図った。また、LINEでの事業所内の情報共有、MCSの活用による医療機関との連携、ケアプランデータ連携システムやインターネット FAX の利用等、ICT の積極的な導入・活用およびコスト削減に注力した。
- 地域福祉への貢献について
地域ニーズを把握出来るように担当者を決めて毎月定期的に地域サロン(3ヶ所)に参加し、積極的に地域活動へ参加した。
- 介護ケアマネジメントの適正化について
相談内容の多様化や支援困難ケースの増加の中、公正かつ中立なサービスの選択、利用者の意思決定支援を心掛けて支援にあたっている。
- ケアプラン作成件数と認定調査について
ケアマネジメントの質の向上の一つとして行っている奈良市委託事業である認定調査を意欲的に受託している。各名目件数は減少しているが、介護支援専門員一人当たりの件数は増加している。

利用者延件数(ケアプラン作成)

	予防	要介護	計
R7 年度	698	1,430	2,128
R6 年度	758	1,756	2,514
増減	-60	-326	-386

認定調査受託件数(市町村委託総数)

R7 年度	65
R6 年度	143
増減	-78

(5) 地域公益活動報告

➤ 【福寿会コミュニティバスの運行】と【地域清掃】について

元気サロン等参加している地域住民との接触の機会に地域の実情として、「高齢化率」と「移動手段が無い」ことについて多くの声があることを改めて認識をした。以前実施していた形のコミュニティバスか、他の方法も含め、法人として地域共創していくうえで、必要課題として継続検討をしていくこととなった。

地域清掃については予定日に参加者体調不良や天候不順により、見送りとなった。

➤ 昨年度に引き続き平城地区のサロン活動を継続して担当した。

毎月第3木曜日を担当し、地域の方のよりどころとして会場を提供し、リハビリ体操を中心に運営を行った。

運営に当たっては、地域包括支援センターの担当者を含め、地域の担当者間で定期的に懇談会を設定し情報共有を図った。その中でもより地域活動を活発にしたいと考えている地域について、平城地区として注力したいとの思いを受け止め、福寿会の開催場所を令和7年10月より平城園からグレイス福寿に移した。移転後も参加者は新規参加者を含め微増し、地域の課題解決のための一翼を担うことができた。

元気サロン（平城園会場参加者人数）

	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3	合計	月平均
利用者	15	14	14	13	13	15	18	10	16	11	20	19	178	14.8

➤ 第3回健康フェア

当初、令和7年の夏前に開催予定であったが先送りとなり、令和8年5月31日実施と日を定め、主として法人が持つ医療情報を地域へ還元し、健康の増進に寄与したいという思いから「夏に備える予防医療（セルフケア）」をテーマに準備を進めている。今回は前回以上に地域共創の意識を持ち地域とのつながりを意識し、地域事業者の参画ブースや移動販売、地位ボランティアによるミニコンサートなども企画している。

(6) 活動報告

➤ 平城園委員会活動

a 研修委員会

園内研修についてはお茶の水ケアサービス学院のネット配信サービスを継続利用し、各部署での動画研修・確認テストを実施した。外部講師による研修としては、協力医療機関である白庭病院による感染症対策研修、ゆめはんな歯科による口腔衛生研修を今年度も実施いただいた。11月度に、行政職員主導のもと市内の福祉施設関係者とともに、平城園を会場として福祉避難所開設訓練を実施。有事を想定したロールプレイングと、参加者との意見交換を行う貴重な機会となった。

b 感染症委員会

定期的な委員会開催時、園内の感染ラウンドでは、各チェック項目について、委員会にて見直しを行い、感染対策に問題がある場合は改善を提案した。

令和7年10月、従来型フロアにて、職員5名、利用者12名のコロナウイルスによるクラスター感染があり、うち利用者3名が入院となった。感染終息後は、臨時会議を開催し、感染対策の評価と今後の改善策の検討を行った。

令和7年12月から、令和8年1月まで、職員及び利用者に数名、感染性胃腸炎を疑う症状者があり、多職種協働で感染対策に努め、拡大することなく終息できた。今後も、感染症を疑う際の早期対応、感染症拡大防止に向け情報を共有し、感染症委員が中心となり発信していきたい。

c リスクマネジメント委員会

骨折や広範囲の内出血ができる事故については、迅速、適切な報告・対応、家族への丁寧な説明を心掛けた。「防げる事故」に対するリスクマネジメント、具体的な安全対策について、日頃から多角的に考えるよう多職種で話し合い、共有することを一層意識づけることが必要と考える。

身体拘束・虐待事例はなかったが、前年度に続き、不適切ケアについて研修、勉強会や話し合いを通して定期的に触れ、それらの発生がないよう、委員メンバーから各部署・チームへの発信を続けていく。

➤ ならやま園委員会活動

a 研修委員会

令和7年度についても人員配置や感染症対策の観点から、集合研修の開催については、課題が残っている。しかしオンライン研修の導入・定着により、仕事の合間に受講が出来るようになり時間の有効活用に繋がっている。またどの時間帯にも受講が可能になり、全職員が対象と受講者が増えたことにより、ケアの統一にも繋がった。令和8年度についても引き続き、法定研修以外にも、その時に必要な研修内容を準備することで、介護力の底上げを目指していきたい。

b 感染症委員会

協力医療機関の白庭病院と連携し、感染症の初期対応について研修を行った。標準予防対策の再確認と、病院での感染対策を知ることによって、職員の知識と技術のアップデートを図った。ノロウイルスの蔓延により、排泄介助マニュアルを新たに作成した。

c 危機管理委員会

今年度も年2回の避難訓練、地震・風水害・土砂災害の避難訓練について実施。BCPについては、定期的に見直し、園内で共有に努めた。施設内の事故については、事故報告書の一部（アクシデント・インシデント・ヒヤリハット）を電子化し、PC内で閲覧、共有、および事故の振り返りができるようにし、再発防止に努めた。介護

ロボット（見守り機器・インカム等）を活用し、事故防止に向け対策を検討した。また身体拘束・虐待防止についても日々の記録を通じ、定期的に会議を行いながら職員間で共有することで、一人一人が不適切ケアについての意識を高め、より良いケアに繋げる良い機会を得ることができた。

➤社会貢献活動（エコキャップ運動）

福寿会では令和5年度よりペットボトルのキャップを回収してリサイクルし、その売却益を発展途上国の子ども向けワクチン支援に活用する社会貢献活動に取り組んできた。今年度は年間で72,156個、ワクチン90本分のキャップを回収することができた。

	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3	合計	月平均
キャップ数	4083	4038	3696	20836	5024	6055	10651	2726	3056	4277	3587	4127	72156	90.1

➤be サポーターズ活動

『Be supporters!』とは、日頃は支えられる場面の多い高齢者や認知症の方が、サポーター＝“支える人”になることで、ココロもカラダも動かしてワクワクする、参加型のプロジェクトで、『いくつになってもワクワクしたい、すべての人へ』というコンセプトに沿って、Jリーグクラブとサントリーウエルネス株式会社が2020年12月より連携し、様々な取り組みが行われている。

地域創生を目指すひとつの新たな形として、福寿会では、Be supporters! 奈良県初の公式認定施設（法人）として令和7年度6月から活動を開始し、地元サッカークラブである「奈良クラブ」のサポーターになり、「人生の先輩からのエール企画」へ参加した。

（主な活動内容3点）

- ・奈良クラブより預かったエール横断幕への寄せ書き

（法人内の利用者68歳から102歳までの115名が、チームや選手に向けて熱いエールを寄せ書きした。）

- ・Be サポエール便

（選手のお悩みや質問に対して、人生の先輩からアドバイスや激励などを回答する企画に4名の利用者が参加し、奈良クラブキャプテンにグレイス福寿へお越しいただき、対面で直接やり取りを交わした。）

これらの活動を通じて「90年生きてきて初めてサッカーに触れた！ボールを蹴ってみたい。」と言って興味を持たれた方や、「プロのスポーツ選手と触れ合えることはめったにないから、長生きをして何回でも会いたい。」と施設の外、地域に出向いて交わってみたいという熱気が法人内に漂い始めた。

・9月には奈良クラブのホームゲームを2名の利用者とともに現地観戦し、熱いエールを送ってきた。

また、全国のbeサポーターズ参加施設間の交流会がWEB形式で開催され、2か月に一回参加し交流を深めた。

➤ 令和7年度実習生受け入れ状況

☆平城園

学校名	人数	期 間
青丹学園（看護学科）	4名	令和7. 5. 12 ～ 5. 16 （4日間）
	4名	令和7. 6. 2 ～ 6. 6 （4日間）
	4名	令和7. 7. 14 ～ 7. 18 （4日間）
介護労働安定センター	2名	令和7. 11. 13 ～ 11. 19 （5日間）
平城中学校 職業体験	3名	令和7. 11. 26 ～ 11. 28 （3日間）
伏見中学校 職業体験	2名	令和7. 10. 22 ～ 10. 24 （3日間）
奈良県立高等養護学校	1名	令和8. 2. 2 ～ 2. 9 （5日間）
奈良県介護支援専門 員実務者研修	1名	令和8. 3. 16 ～ 3. 18 （3日間）

☆ならやま園

学校名	人数	期 間
青丹学園（看護実習）	4名	令和7. 4. 28 ～ 5. 2 （4日間）
	3名	令和7. 5. 26 ～ 5. 29 （4日間）
	4名	令和7. 6. 16 ～ 6. 19 （4日間）
奈良県介護支援専門員 実務研修	1名	令和7. 4. 14 ～ 4. 16 （3日間）
介護労働講習 実務研修	2名	令和7. 11. 12 ～ 11. 18 （5日間）
平城中学 職業体験実習	2名	令和7. 11. 26 ～ 1. 28 （3日間）

☆ヴィラ秋篠

学校名	人数	期 間
日本メディカル専門学校 (社会福祉士)	1 名	令和 8. 2. 2 ～ 3. 25 (24 日間)

☆グレイス福寿

学校名	人数	期 間
大原医療福祉製菓専門学校 (社会福祉士)	1 名	令和 7. 10. 20 ～ 令和 8. 2. 19 (24 日間)
	1 名	令和 7. 12. 8 ～ 令和 8. 4. 15 (24 日間)

➤ 出張・研修結果一覧

☆法人研修

出張日	人数	出張先	目 的
R7.2 月～9 月	21	平城園 法人会議室	「チーム力アップ研修」 トライアーチ
R7.5.12 ～ 5.15(4 日間)	50	平城園 法人会議室 特別養護老人ホーム平城園	「省エネ勉強会」 日本テクノ株式会社
R8.1.28	21	平城園 法人会議室	「感染症の初期対応」 医療法人松下会 白庭病院

☆平城園

出発日	人数	場所	目 的
R7.5.8・5.9 7.10・7.12	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース
R7.5.20	1	奈良県社会福祉総合センター	福祉サービスマナー研修
R7.5.15～5.28	2	Web セミナー	管理職のコミュニケーション術 ～職員が働き続けたいと思える組織を作るために～
R7.5.16	1	web セミナー	令和 7 年度認知症介護基礎研修
R7.5.25	1	橿原市商工経済会館	まほろば協同組合 令和 7 年度定期総会及びセミナー
R7.6. 5	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	介護現場における感染症の予防と対策①
R7.7.3・7.4・ 9.4・11.6	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	スーパーバイザー養成研修

R7.6.12	1	web セミナー	感染症と食中毒の対策強化
R7.6.20	3	web セミナー	ユニットケア基礎研修
R7.6.24・ R7.6.25 R7.7.7	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース
R7.7.8～10.20 (計6 日間) 職場実習 4 週間	2	奈良県社会福祉総合センター	令和 7 年度奈良県認知症介護実践者研修
R7.7.10	1	オンデマンド	第一回長寿社会開発センター研究セミナー
R7.7.10～11	2	和歌山城ホール	近畿老人福祉施設研究協議会 和歌山大会
R7.7.11～7.24	1	web セミナー	認知症の方に対しての介護技術「食事介助・排泄介助」
R7.7.18～ 11.10 (計6 日間)	1	奈良県産業会館	認知症介護実践リーダー研修
R7.7.25	1	オンライン	2025 年認知症ケア新時代～BPSD 対応から権利擁護まで～
R7.7.17	3	奈良県社会福祉総合センター5 階	OJT 担当者基礎研修
R7.7.29	2	サントウンすずらん館 2 階	キューピー「やさしい献立シリーズ」勉強会・試食会
R7.7.30	2	とみの里ふれあい会館	ネットワーク研修会「高齢者の口腔ケア・オーラルフレイル」
R7.8.8	1	オンライン	ケアマネジャーに必要な虐待防止の知識
R7.8.12	1	奈良公園バスターミナル東棟 2F レクチャーホール	安全運転管理者講習
R7.8.15～8.28	1	web セミナー	災害時の介護現場の対応
R7.8.20～ 12.19	1	オンライン	企業主導型事業 施設長研修
R7.8.26～ 8.27・9.16	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	福祉職員キャリアパス対応生涯研修管理職員コース
R7.8.28	2	奈良県社会福祉総合センター	ひもときシート研修
R7.9.1	1	奈良県社会福祉総合センター	企業主人権・同和問題研修会・公正採用選考研修会
R7.9.4、9.5・ 9.12	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース
R7.9.8	3	奈良県社会福祉総合センター5 階	アンガーマネジメント基礎研修
R7.9.16～ R8.1.18	1	e-ラーニング	キャリアアップ研修 乳児保育
R7.9.17	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	「ヤングケアラー支援者養成及び関係機関連携研修会 基礎編」研修
R7.9.19～ 10.19	6	web セミナー	令和 7 年度認知症介護基礎研修

R7.9.18・ 12.11	4	奈良県社会福祉総合センター5 階	OJT 担当者実践研修
R7.9.20	1	web セミナー	認知症の理解とチームケア
R7.9.23	1	web セミナー	円滑な他職種連携を行うための体制づくり
R7.9.26	1	web セミナー	認知症の理解とチームケア
R7.9.28	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	令和 7 年度 第二回奈良 DWAT 研修
R7.10.2・12.4	1	奈良県社会福祉総合センター	令和 7 年度奈良県老人福祉施設協議会ソーシャルワーク研修
R7.10.3	2	OMM 2 階会議室	令和 7 年度高齢者施設向け生成 AI ツール活用実践セミナー
R7.10.16	1	インテック大阪	ケアテックス大阪
R7.10.17	1	web セミナー	令和 7 年度 奈良市特定給食施設等研修会
R7.10.15～ 10.17	1	web セミナー	口腔ケア～死ぬまで嚥んで食べる為のケア～
R7.10.17～ R8.1.23 (計 6 回)	1	奈良県社会福祉総合センター	令和 7 年度奈良県認知症介護実践者研修
R7.10.17・ 24・31	1	介護労働安定センター	介護実践者研修アドバイザー
R7.10.18	1	愛知国際展示場	第 63 回技能五輪全国大会 介護職種エキシビジョン
R7.10.23	3	オンライン	奈良市老人福祉施設連絡協議会研修会 ①感染症について②福祉避難所について
R7.10.28・ 12.2	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	対人援助コミュニケーション力向上研修
R7.10.31	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	「アンガーマネジメント実践研修 ～相手に伝わる上手な叱り方を学ぶ～」
R7.11.13～26	2	web セミナー	令和 7 年度 虐待防止と身体拘束防止
R7.11.14	3	ホテル日航奈良	第 37 回奈良県老人市福祉施設職員研究会議
R7.11.11	1	田原本青垣学習センター	副安全運転管理者講習
R7.11.29・ 11.30	1	奈良県社会福祉総合センター	奈良 DWAT 研修「災害派遣福祉チーム実践研修」
R7.12.5	1	奈良県社会福祉総合センター	傾聴から始まるストレングス発見研修
R7.12.6	2	オンライン	介護保険施設等対象とした特定行為研修制度に関する説明会（第 2 回）
R7.12.8	1	奈良県社会福祉総合センター	令和 7 年度奈良県老人福祉施設協議会 栄養士研究会
R7.12.10	1	橿原文化会館	奈良県社会福祉大会
R7.12.11～ R7.12.24	1	web セミナー	現場のニーズに合った介護ロボットの見つけ方 ～課題可視化方法から介護ロボットごとに満たせるニーズを徹底解説～

R7.12.12	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	令和 7 年度管理職向け組織マネジメント研修
R7.12.25～28	1	オンライン	企業主導型事業 安全研修
R8.1.20	2	奈良県産業会館	苦情解決責任者研修会
R8.1.21	1	奈良県社会福祉総合センター	「i 認知症の私が今を楽しく生きる理由」
R8.1.14～1.27	3	web セミナー	介護事故トラブルを防ぐポイント ～リスクが高まるタイミングをキャッチしよう～
R8.1.29	1	奈良県社会福祉総合センター	ストレスマネジメント研修
R8.1.31	1	奈良市商工会議所 5 階	令和 7 年度奈良市多職種連携全体研修会
R8.2.10	1	ミグランス橿原分庁舎 4 階コンベンションホール	令和 7 年度奈良県老人福祉施設協議会在宅サービス研修会
R8.2.17	1	奈良県社会福祉総合センター	認可外保育施設保育従事者研修
R8.2.19	2	エルトピア奈良	外国人従事者指導職員向け研修 IN NARA
R8.2.25	1	奈良県社会福祉総合センター	認知症実践リーダーフォローアップ研修
R8.2.26	1	奈良市役所	令和 7 年度奈良市要介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会
R8.3.2	2	オンライン	介護現場における生産性向上推進フォーラム
R8.3.11～3.24	1	web セミナー	重度化予防の為にのポジショニング～基本から実践まで～
R8.3.12	1	web セミナー	令和 7 年度奈良市要介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会
R8.3.12	1	奈良市北福祉センター	地域共生社会に向けたケアマネジメントの実践を目指して
R8.3.26・R8.4 (計 4 日間)	1	オンライン	介護福祉士指導者講習会

☆ならやま園

出張日	人数	出張先	目 的
R7.5.8・5.9 7.10・7.12	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース
R7.5.15～5.28	1	Web セミナー	管理職のコミュニケーション術 ～職員が働き続けたいと思える組織を作るために～
R7.6.6	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	介護現場における感染症の予防と対策①
R7.6.10・ 6.17・8.21 10.23	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	スーパーバイザー養成研修
R7.6.12	2	web セミナー	感染症と食中毒の対策強化
R7.6.23	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	介護現場における腰痛予防と対策
R7.6.24・ R7.6.25 R7.7.7	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース

R7.7.10	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	メンタルヘルスケア① セルフケア編
R7.7.10～11	1	和歌山城ホール	近畿老人福祉施設研究協議会 和歌山大会
R7.7.11～7.24	1	web セミナー	認知症の方に対しての介護技術「食事介助・排泄介助」
R7.7.17	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	OJT 担当者基礎研修
R7.7.29	2	サントウンすずらん館 2 階	キューピー「やさしい献立シリーズ」勉強会・試食会
R7.8.12	1	奈良公園バスターミナル東棟 2F レクチャーホール	安全運転管理者講習
R7.8.15～8.28	2	web セミナー	災害時の介護現場の対応
R7.9.4、9.5, 9.12	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅コース
R7.9.8	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	アンガーマネジメント基礎研修
R7.9.5・11.26 R8.1.9	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	リーダー養成研修
R7.9.17	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	「ヤングケアラー支援者養成及び関係機関連携研修会 基礎編」研修
R7.9.18～30	2	web セミナー	令和 7 年度認知症介護基礎研修
R7.9.18	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	メンタルヘルスケア②ラインケア編
R7.9.20	1	かしはら万葉ホール	令和 7 年度 介護職の技能実習指導員講習
R7.9.28	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	令和 7 年度 第二回奈良 DWAT 研修
R7.10.3	1	OMM 2 階会議室	令和 7 年度高齢者施設向け生成 AI ツール活用実践セミナー
R7.10.4	2	奈良市はぐくみセンター	難病関係職員研修会
R7.10.15～ 10.28	2	web セミナー	口腔ケア講習
R7.10.15～ 10.28	1	web セミナー	口腔ケア～死ぬまで噛んで食べる為のケア～
R7.10.17	1	web セミナー	令和 7 年度 奈良市特定給食施設等研修会
R7.10.17～ R8.1.23 (計 6 回)	2	奈良県社会福祉総合センター	令和 7 年度奈良県認知症介護実践者研修
R7.10.18	1	愛知国際展示場	第 63 回技能五輪全国大会開催概要
R7.10.28・ 12.2	3	奈良県社会福祉総合センター5 階	対人援助コミュニケーション力向上研修
R7.10.31	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	「アンガーマネジメント実践研修 ～相手に伝わる上手な叱り方を学ぶ～」
R7.11.8	1	吉田病院 きずなルーム	緩和ケア研修会 緩和ケアに携わる医療者の学び＆交流の場

R7.11.8	1	奈良市はぐくみセンター	令和 7 年度地域支援研修会
R7.11.11	1	田原本青垣学習センター	副安全運転管理者講習
R7.11.13～ 11.26	1	web セミナー	令和 7 年度 虐待防止と身体拘束防止
R7.11.14	1	ホテル日航奈良	第 37 回奈良県老人市福祉施設職員研究会議
R7.11.21	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	介護現場における感染症の予防と対策②
R7.12.2	1	奈良市役所 正庁	令和 7 年度 奈良市入退院連携支援合同会議
R7.12.8	1	奈良県社会福祉総合センター	令和 7 年度奈良県老人福祉施設協議会 栄養士研究会
R7.12.11～ 12.24	1	web セミナー	現場のニーズに合った介護ロボットの見つけ方 ～課題可視化方法から介護ロボットごとに満たせるニーズを徹底解説～
R7.12.12	1	奈良県社会福祉総合センター5 階	令和 7 年度管理職向け組織マネジメント研修
R7.12.16	2	奈良県社会福祉総合センター5 階	介護記録の書き方
R8.1.14～1.27	1	web セミナー	介護事故トラブルを防ぐポイント ～リスクが高まるタイミングをキャッチしよう～
R8.1.31	2	奈良市商工会議所 5 階	令和 7 年度奈良市多職種連携全体研修会
R8.2.2	1	奈良県社会福祉総合センター	テーマ別研修「働きやすい職場づくりに向けた介護テクノロジー等の活用」
R8.2.5～	1	全国老人福祉施設協議会	介護人材定着研修
R8.2.10	2	ミグランス橿原分庁舎 4 階コンベンションホール	令和 7 年度奈良県老人福祉施設協議会在宅サービス研修会
R8.2.23・3.3 3.10・3.17	1	かしはら万葉ホール	令和 7 年度第 2 回介護福祉士指導者講習会
R8.3.11～3.24	2	web セミナー	重度化予防のためのポジショニング～基本から実践まで～
R8.3.12	1	web セミナー	令和 7 年度奈良市要介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会

6 医療部門

(1) 平城園診療所

特養の入所者に関しては、健康管理と日常的な診療を行い、疾病予防医療についての運営に努めた。特養看護師と連携したことで、入所者の異常の早期発見に努めることができ、関連病院への入院治療がスムーズに行われ、より重症化を防ぐことにつながった。法人職員に関しては、産業医による定期健康診断の実施及び、衛生管理者との連携を図り、疾病予防と健康管理に努めたことから、職員の意識も高まり受診者数は増えた。インフルエンザ予防接種は定期接種として実施、コロナワクチンは希望者への接種を実施した。

一般外来診療については、令和５年度より週１回火曜日の午前中のみの診察となり、受診者数が減少していたが、令和８年度より平日午前中の診察へ体制を変更し、地域医療に貢献していく。

また、介護サービス利用時の各種健康診断での受診が増えており、スムーズなサービス利用ができるよう関係部署との連携を図った。

受診者数

(単位：人)

	利用者	法人職員	地域住民	各種健診	合計
R7 年度延人数	5,418	71	111	87	5,687
R6 年度延人数	5,428	42	99	-	5,569

(２) あきしの整形外科クリニック

- 令和７年６月１日でクリニックは開院２年を迎えた。新患数、延べ患者数も増えてきた。運動器のリハビリができるクリニックとしての予約枠が不足するようになってきたので枠の拡大を検討している。

令和７年度 受診者数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
延患者数	752	799	768	756	634	668	754	640	702	702	746	796
新患数	163	135	126	128	118	126	143	105	110	129	123	136
診療日数	17	17.5	17	17	15	15	18	15	17	15	15	17
一日平均患者数	44.2	45.7	45.2	44.5	42.3	44.5	41.9	42.7	41.3	46.8	49.7	46.8
一日平均新患数	9.6	7.7	7.4	7.5	7.9	8.4	7.9	7	6.5	8.6	8.2	8

７ 保育部門

(１) 登美ヶ丘マミーズ保育園

令和７年４月から認定こども園として、１号認定児を受け入れ新たな一步を踏み出した。保育所と幼稚園の両方の機能を併せ持ち、就学前の教育・保育を一体的に行うことと地域の子育て支援の場の提供を行うことを目的とし、すべての子どもが健やかで安全、安心に過ごし成長できる場となるよう努めてきた。幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っている。子どもたちの「今」を大切に自分で考えて、行動できる子を育成するために、遊びや体験を大切にし、自分の見つけた遊びにとことん取り組む中で遊び

抜く力や創造力、諦めない心等、将来につながる力を育むようにしてきた。また、子どもたちの可能性を広げる機会として、外部より専門講師を招いての体操・英語・ダンス・サッカー教室を開催、温かな心を育む経験として当法人が運営する高齢者施設の方々やお話せんと会による絵本の読み聞かせ等、地域の方々との積極的な交流を行ってきた。国際中学・高等学校の「秋風コンサート」に年長児が参加し、大勢の観客の前で組体操やバルーン演技を披露できた。カリキュラムの変更で実施できなかった中学生との交流を次年度は実施できるように計画中である。創立6周年を迎え、園児数も増加し、現在120名以上の園児が通園している。認定こども園になり、1号認定児（幼稚園枠）も通う中、園内外の研修への積極的参加等、保育者のスキルアップに努めた。中でも専門講師を招聘しての研修は、新たな気づきや学びを深める有益な時間となった。子育て支援としては、園庭開放や未就園児親子対象のマミーズ広場を開催した。少人数参加ではあるが就園にも繋がっている所以今後も計画的に取り組んでいきたい。

➤ 園児利用状況

・通常保育 利用児童数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	9	11	12	12	12	12	15	15	18	18	18	18
1歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
2歳児	21	21	21	21	20	21	21	21	21	21	21	21
3歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
(1号)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
4歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
(1号)	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4
5歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20

・一時預かり保育 利用児童数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	74	49	48	74	69	58	55	69	84	86	89	93

➤ 保育の実施状況

■ 保育について

保育理念である「生きる力」「創造力」「温かい心」を目指し、「たくましい子、優しい子、心豊かでのびのびした子、創造力のある子」を保育目標に掲げ、様々な遊びや体験を通して、子どものやりたい気持ちを大切にしながら、自己肯定感や非認知能力の育ちを大切にしたい保育を年齢ごとの指導計画に添って進めた。

■ 園行事

予定通りに行事を進めることができた。参観や夏祭り・作品展・生活発表会については保護者にも参観・参加をしていただくことで、園の保育・教育の理解につながった。

■ 健康管理

内科検診…年2回実施（4月20日・11月14日）

歯科検診…年1回実施（6月19日）

眼科検診…年1回実施（6月13日）

■ 食育指導（給食）

畑のおじさんの指導の下、四季折々の野菜を育て、収穫した野菜は給食で提供してもらった。季節や伝統の食材を食することや、クッキング活動を取り入れることで「作る楽しさ」「食べる楽しさ」を味わい、食に関心をもつことができた。また、給食業者による、クッキング屋台でのおやつ提供や、お米ができるまでの話を聞いたりする体験を通して、食べることへの意欲や興味・関心がさらに高まった。

■ 安全対策

災害に備え、避難訓練を年間13回実施した。火災・地震・水害・不審者対応など、非常時を想定して行った。不審者対応訓練は、警察官の指導のもと、訓練を行った。

■ 安全計画を作成し計画に基づき進めた。危機を想定しながらの訓練や、非常時の対応の仕方について実践を伴って共通理解した。警察や消防署の協力も得ながら対応の仕方について学んだ。

■ AED講習会を開き、消防士の指導の下、救急・救命について学んだ。

➤ 会議・研修

■ 定例職員会議（12回）、主幹会議、処遇会議（食育・安全・人材・特別支援）、乳児会議、幼児会議、ヒヤリハット会議等、子どもたちが日々安全・安心で楽しく、かつ主体的な毎日を過ごすにはどのような環境や援助が必要となるか、クラスの実態や保護者の様子等を出し合い情報共有した。行事については係を中心に進め、終了後は振り返りを行い、翌年以降の課題をとりまとめた。

処遇会議では、部会ごとに会議をもった。安全部会では、ヒヤリハット事例を出し合い、環境や保育の見直しを行うとともに、嘔吐処理やけがの処置などについても学び合った。特別支援部では、月2回の巡回相談日にアドバイザーの助言を仰ぎ、今後の指導に生かすようにした。人材育成会では、園内研修・勉強会の企画、実施後のまとめを行い園内に掲示し、参加できなかった職員もまとめを見て学べるようにした。今後も一人でも多くの職員が研修に参加できるよう会の持ち方を工夫していきたい。

- 園内研究会（年間6回）、キャリアアップ研修（個人）、園内外の研修に参加する。職員の資質向上のため、園内公開研究会を実施。公開保育と研究討議を通して学ぶ。研修の持ち方を考え、少グループで話しやすい場になるようにした。学んだ事が日々の保育実践に生かされるような研修会になるように努めた。キャリアに応じて各種研修会に参加し、参加後は報告書を提出。研修報告会については時間の確保が難しく改善できていない。定例会議時に報告会も入れるなどの工夫をしていきたい。
- 園内研修では、「危機管理マニュアルの確認」「不適切な保育について」「ミニ保育研修」「感染予防対策」等を行った。
- 不適切な保育については、各保育士が「人権擁護のチェックリスト」を用いて子どもへの関わり方を振り返り「子どもを尊重すること」や「子どもの人権擁護」について意識を高めた。
- 今年度は、外部講師を招聘しての研修会を開催することができた。日々の保育を見つめ直す基調で実り多い機会となった。

➤ 地域との関わり

- 地域在住の保護者を対象に毎月1回「マミーズ広場」を開催した。保育見学、園の説明、触れ合い遊び等を行った。数名の子どもの就園に繋がった。今後も計画的に取り組みたい。
- 奈良県立国際中学高等学校との交流
桜見、「秋風コンサート」に5歳児が参加した。
- 「ならせんと会」によるお話の会を毎月1回実施した。
- 療育施設との連携により配慮を要する園児の発達支援を実施した。

➤ 保護者支援

- 保育参観や行事への参観・個人懇談等を実施した。運動会や発表会は子どもの成長を理解してもらう機会となり、夏祭りは親子で楽しめる時間となった。今後も参観や保育参加を通して、子どもの成長や園の魅力など保育・教育について理解してもらえる場にしていきたい。
- アンケート調査を実施した。大半が園の保育・教育や運営の在り方に理解を示してくださっていることが伺えた。一部、意見もあったが、検討課題とし改善が必要であると思われる事は、改善していきたい。アンケートの集計結果や意見に対する園の回答をまとめ、保護者にフィードバックした。

(2) 福寿会マミーズ保育園

令和7年度は4月より従業員枠・共同利用枠2名、地域枠5名の計7名でスタートした。7月・1月には従業員の0歳児のお子様を新たに2名、10月には、弾力措置により、地域枠を2名増やして1月には、定員いっぱいの10名のお子様を受け入れた。4月以降、定期利用の問い合わせが相次いだが生き定員が無く、約20名の方に入園をお断りすることとなった。昨年度に比べて、定期利用希望が倍になっている。0歳児からの入園希望が増える一方で、一時預かりの問い合わせは減少傾向にある。

保育では、平城園の周りの自然と親しみ、デイサービス訪問や園外散歩を沢山取り入れることで、体力づくりや五感への刺激、社会性の育成、地域の方々との触れ合いを感じて学ぶ事が出来た。子ども達にさせる保育ではなく、子どもが主体となり遊びぬける保育を多く取り入れ、小規模ならではの縦割り保育で、子ども同士の思いやりを深く育むことが出来た。

また、保護者の育児困難をサポートできるように、保護者支援をしっかりと行った。専門性の向上を目指して、保育士の外部研修を積極的に受講し、保育士それぞれの意識の向上を目指すことができた。今後も従業員の働き方に即した保育の提供と、地域に密接した寄り添った保育をご提供していきたい。

・利用者延人数

(単位：人)

	R7.4		5		6		7		8		9	
	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時
0歳児	0	0	0	0	0	0	11	10	12	0	14	2
1,2歳児	111	6	113	2	126	3	125	12	93	5	120	15
3歳児	0	2	0	1	0	4	0	4	0	4	0	5
4,5歳児	0	8	0	1	0	4	0	3	0	7	0	4
合計	111	16	113	4	126	11	136	29	105	16	134	26

	10		11		12		R8.1		2		3	
	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時
0歳児	31	18	48	3	56	2	52	5	57	0	65	3
1,2歳児	120	10	99	14	87	11	125	2	93	5	112	8
3歳児	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0	0
4,5歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
合計	151	29	147	19	143	14	177	8	150	10	177	12